

事業名：学校図書館事業

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略						
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内公立小中学校の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内公立小中学校の児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

学校図書館の図書の新規購入・更新

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	図書購入冊数	冊	11,588	10,489	9,073	8,294
活動指標 2	環境改善にかかる費用	千円	1,088	1,207	1,204	2,554

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校図書館の蔵書の充実を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	蔵書率	%	88.3	92.8	95.7	97.4
成果指標 2	学校図書館図書標準蔵書冊数達成校割合	%	23.1	36	52	68

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	18,100	17,685	16,361	14,758
正職員人件費 (B)		千円	3,048	3,051	3,075	3,096
総事業費 (A+B)		千円	21,148	20,736	19,436	17,854

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）			
元年度	図書及び書架の購入	図書購入費	小学校	8,869千円	
			中学校	4,360千円	
		書架購入費	小学校	1,476千円	
			中学校	451千円	

**事業開始背景**

学校図書館法に基づき、学校図書館の整備及び充実を図るため。

**事業を取り巻く環境変化**

令和2年度からの新学習指導要領では、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、自主的・自発的な学習活動や読書活動の充実が挙げられている。  
 文部科学省は令和元年度においても、平成29年度から引き続き「新学校図書館図書整備5か年計画」を策定し、総務省では当該計画に基づき、学校図書館の円滑な整備が行われるよう必要な経費についても地方交付税により財政措置を講ずることとしている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">蔵書率が低い学校に重点的に予算配分を行うことで、年度当初の計画どおり蔵書率を増加させることができ、標準蔵書冊数達成校の割合も達成することかできた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	蔵書率が低い学校に重点的に予算配分を行うことで、年度当初の計画どおり蔵書率を増加させることができ、標準蔵書冊数達成校の割合も達成することかできた。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	蔵書率が低い学校に重点的に予算配分を行うことで、年度当初の計画どおり蔵書率を増加させることができ、標準蔵書冊数達成校の割合も達成することかできた。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">段階的に蔵書率を増加させることができているが、経年の汚損等による廃棄を行いながら蔵書率を増加させていく必要があるため、引き続き計画的に書架や図書の購入を行い、学校図書館の整備の充実を図っていく。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	段階的に蔵書率を増加させることができているが、経年の汚損等による廃棄を行いながら蔵書率を増加させていく必要があるため、引き続き計画的に書架や図書の購入を行い、学校図書館の整備の充実を図っていく。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	段階的に蔵書率を増加させることができているが、経年の汚損等による廃棄を行いながら蔵書率を増加させていく必要があるため、引き続き計画的に書架や図書の購入を行い、学校図書館の整備の充実を図っていく。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">購入により蔵書数が増加する一方、経年の汚損等で廃棄する図書も多く、継続的な図書の追加整備が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	購入により蔵書数が増加する一方、経年の汚損等で廃棄する図書も多く、継続的な図書の追加整備が必要である。	なし	
ある	理由 根拠	購入により蔵書数が増加する一方、経年の汚損等で廃棄する図書も多く、継続的な図書の追加整備が必要である。				
なし						

事業名：教育研究会事業

【事業番号 395】  
 学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略							
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市教育研究会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	教育研究会所属教員数	人	612	604	595	604
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市教育研究会が行う事業の経費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	5,200	5,200	5,200	5,200
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

教職員の資質を向上させるための研修会等を開催する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	研修会等開催日数	日	182	171	134	179
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	5,200	5,200	5,200	5,200
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	5,962	5,963	5,969	5,974

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	江別市教育研究会に対し所要の経費を補助する。	江別市教育研究会補助金 5,200千円

**事業開始背景**

教職員の指導力向上等のため、教職員の自主的な研究研修などに対して補助を行っている。

**事業を取り巻く環境変化**

全国学力・学習状況調査が実施され、学力の向上が北海道や当市にとって大きな課題となっている。今後も教職員の指導力向上のための取組は必要であり、教育研究会に対する補助の重要性は増している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	会員が所属する各部門で研究や発表を行っており、様々な場面で生かされている。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	教職員が課題研究活動や研究結果の発表などを行い、指導力向上に最大限努めているため。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	研究活動項目が多岐に渡っており、コスト削減は難しい
	なし			

事業名：校外学習推進事業

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略						
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・スキー授業を受ける小中学校児童生徒
- ・ファースト・コンサート事業に参加する小学校児童数

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	スキー授業を受ける小中学校児童生徒数	人	5,757	5,273	5,932	5,387
対象指標 2	ファースト・コンサート事業に参加する小学校児童数	人	0	0	996	923

手段（事務事業の内容、手法）

- ・学校単位で行うスキー授業のうち、1回分のバス賃借料を負担する。
- ・ファースト・コンサートに参加するために、学校が借り上げるバス賃借料を負担する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	借上したスキーバスの台数	台	161	154	155	164
活動指標 2	借上したファースト・コンサート事業のバス台数	台	0	0	26	28

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・スキー授業実施に係る保護者の負担軽減により、スキー授業の円滑な実施を図る。
- ・ファースト・コンサート参加に係る保護者負担を軽減し、参加を促進することにより、教育活動の充実を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	スキー授業に参加した児童生徒の延人数	人	5,757	5,273	5,932	5,387
成果指標 2	ファースト・コンサート事業に参加した児童の延人数	人	0	0	938	923

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	12,415	11,830	14,116	16,075
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	1,548
総事業費 (A+B)		千円	14,700	14,118	16,422	17,623

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校のスキー授業等の実施にあたり、1回分のバス賃借料を負担する。</li> <li>・小学校がファースト・コンサート事業に参加するにあたり、バス賃借料を負担する。</li> </ul>	スキー授業等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 8,811千円</li> <li>・中学校 3,581千円</li> </ul> ファースト・コンサート事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 1,724千円</li> </ul>	

**事業開始背景**

江別市内にスキー場がなく、体育授業の一環である「スキー授業」を行うに当たり、バスを借り上げスキー場へ行く必要があるため。

**事業を取り巻く環境変化**

バス借上げにおいて、国内外からの観光客の増加および運転手不足により、バスがフル稼働できず、バスが不足している現状である。また、国土交通省が、貸切バスの安全性向上を図る取り組みの一環として、貸切バスの運賃制度を抜本的に見直し、時間・キロ併用制運賃を平成26年4月より実施。貸切バス事業者は、各運輸局等が公示した運賃の上限額と下限額の幅の中で運賃を決定することとなった。この新運賃体制では、時間および距離によって料金が変動するため、料金が高騰する遠方の貸切バス事業者に配車を依頼することができず、バスの確保が大変厳しい。このような状況の中で、一定数のバスを確保し続けるため、北海道運輸局で示されている大型バスの運賃の範囲において、事業者が受注可能な金額が必要となっている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	学校が希望するバス台数を確保し、希望するスキー場で円滑なスキー授業が行われた。また、ファースト・コンサートの参加希望校に対しても同様にバス台数を確保することができた。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	各学校で2回程度実施されているうち、1回分のバス借上げ料の負担軽減は図られているが、スキー授業全てのバス借上げ料を助成することは、財政上困難である。ファースト・コンサートについては、希望する全ての小学校に対して助成することとしている。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	近隣（札幌・岩見沢近郊のスキー場）に行先を限定したり、バス台数を削減するため、学年・学級別の配車ではなく、学年や学級を混在するなど、コストダウンをできる限り行っている。また、ファースト・コンサートの開催場所も例年同様のため、開催場所が変更にならない限りは予算を削減することは不可能である。
	なし		

事業名：江別市教育研究所事業

【事業番号 397】  
 学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略						
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市教育研究所

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	研究所数	箇所	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

教育に関する調査、研究、資料の収集整理などを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	研修会等開催回数	回	3	2	1	2
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

江別市の教育研究の進展と充実を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	研修会等参加者数	人	726	438	470	657
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,369	2,388	2,287	2,687
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	3,893	3,913	3,824	4,235

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する調査、資料の収集及び教育行政の情報提供</li> <li>・教育相談、研修及び関係各機関との交流</li> <li>・教育研究所所報等の出版</li> </ul>	教育研究所運営経費 2,132千円 教職員セミナー等研修会開催経費 82千円 家庭向けリーフレット作成経費 73千円	

<b>事業開始背景</b>
教育の諸課題について研究するため、昭和30年度に設立された。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成29年3月に新学習指導要領が告示され、令和2年度から小学校で、令和3年度から中学校で全面实施される。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> <p>教職員のニーズに沿った内容の研修が実施されており、教育に関する調査研究成果が教職員に還元されている。</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p> <p>現状においても、当市の教育上の諸課題についての研究成果が十分に提供されている。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p>なし</p> <p>所報の内部印刷による経費削減などを実施済みであり、これ以上のコスト削減は難しい。</p>

事業名：特別支援学級生活介助事業

【事業番号 399】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市内公立小中学校の特別支援学級の児童・生徒

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 小中学校の特別支援学級の児童・生徒数	人	204	219	240	257
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

特別支援学級を設置している小中学校に特別支援教育支援員を配置する。又、特別支援学級の運営に必要な環境整備を行う。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 特別支援教育支援員(特別支援学級)数	人	31	34	35	35
活動指標 2 特別支援学級教員数	人	95	100	105	102

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

一人ひとりの教育的ニーズに則した支援の実現を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 教職員(特別支援学級教員及び介助員)1人当りの特別支援学級在籍児童生徒数	人	1.62	1.63	1.71	1.88
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	48,607	49,165	50,136	55,562
正職員人件費(B)	千円	3,047	25,932	4,228	3,871
総事業費(A+B)	千円	51,654	75,097	54,364	59,433

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員(特別支援学級)の配置</li> <li>特別支援学級の運営等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員(特別支援学級)報酬 : 46,726千円</li> <li>特別支援学級の運営経費(消耗品費等) : 3,233千円</li> <li>特別支援教育に必要な器具等の購入費 : 177千円</li> </ul>
元年度	

<b>事業開始背景</b>
平成18年6月に学校教育法等の改正が行われ、平成19年4月から、障がいのある児童生徒等の教育の充実を図るため、従来、障がい種別ごとに設置されていた盲・聾・養護学校の制度を、複数の障がい種別を教育の対象とすることができる特別支援学校の制度に転換するとともに、小中学校等に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒等に対して、特別支援教育を行うことが位置づけられた。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
障害者権利条約批准の制度改正に伴い、インクルーシブ教育システムが推進され、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、出来る限り共に学ぶ共生社会を目指すようになった。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
支援員の配置、施設整備により、障がいのある児童生徒一人ひとりに対して、よりきめ細やかな対応ができるようになった。		
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
障がいのある児童生徒一人ひとりのニーズを十分に把握し、施設整備を行うとともに、支援員を必要とする学校に適切に配置していくことで、成果の向上が期待できる。		
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
障がいのある児童生徒一人ひとりのニーズに対応していくため、支援員の配置や施設整備は必要である。		

事業名：学校給食事業

給食センター 業務係

政策	06 子育て・教育		戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

給食センターで作った給食を専用搬送車両で市内全公立小中学校へ配送し、各学校に配置している配膳員が各クラスに配膳する。  
給食に地場産野菜を提供してくれる農家団体やJA道央と調整し、出来るだけ多くの地場産野菜を導入する。  
「江別市学校給食会運営費補助要綱」に基づき、江別市学校給食会へ補助金を支出する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 年間給食センター稼働日数	日	205	201	183	204
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

正しい食事のあり方や、望ましい食生活を身につけ、食事を通じて育成時に必要な食事を摂取（栄養バランス、量）し、健康が維持される。また、食事、給食活動を通じて、豊かな心が育成される。  
児童生徒に新鮮で安全安心な地場産野菜をたくさん使って、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより健康の増進と体位の向上に貢献する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 地場産野菜の使用率	%	42.1	37	41.5	50
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	242,136	246,412	246,174	265,932
正職員人件費 (B)	千円	123,412	122,032	122,992	123,856
総事業費 (A+B)	千円	365,548	368,444	369,166	389,788

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理場運営、維持管理費用</li> <li>配膳員をはじめとする給食関係職員の人件費</li> <li>給食配送や弁当箱洗浄など給食関係業務委託費</li> <li>江別市学校給食会運営費への補助金</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>配膳員等報酬 65,079千円</li> <li>重油代 19,316千円</li> <li>電気料 15,272千円</li> <li>水道料 12,366千円</li> <li>学校給食配送業務委託料 48,504千円</li> <li>江別市学校給食会運営費補助金 20,892千円</li> </ul>

**事業開始背景**

学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資し、かつ、国民の食生活の改善に寄与するものであることから、学校給食の普及充実を図ることを目的として、昭和29年に学校給食法が制定された。江別市の学校給食は、昭和37年に単独校方式によって旧江別小学校と豊幌小学校で始まり、昭和44年には給食センターが建設され、全校給食が開始された。

**事業を取り巻く環境変化**

- ・アレルギー児童生徒への対応。
- ・児童・生徒数が減少傾向にある。(学級数減)
- ・調理員の退職者不補充を非常勤職員増員によって対応している。

**令和元年度の実績による担当課の評価(令和2年度7月時点)**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか? 成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか?							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">給食事業の中で食に関する指導の必要性は高まっており、指導内容の向上にも努めている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	給食事業の中で食に関する指導の必要性は高まっており、指導内容の向上にも努めている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				給食事業の中で食に関する指導の必要性は高まっており、指導内容の向上にも努めている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地(可能性)はありますか? その理由は何ですか?							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">給食にはできる限り地場産の食材を取り入れており、メニュー等内容は高いレベルを維持している。今後、栄養教諭による児童・生徒ひいては保護者への指導が充実することで、上位貢献度、各指標ともに向上が期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	給食にはできる限り地場産の食材を取り入れており、メニュー等内容は高いレベルを維持している。今後、栄養教諭による児童・生徒ひいては保護者への指導が充実することで、上位貢献度、各指標ともに向上が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				給食にはできる限り地場産の食材を取り入れており、メニュー等内容は高いレベルを維持している。今後、栄養教諭による児童・生徒ひいては保護者への指導が充実することで、上位貢献度、各指標ともに向上が期待できる。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト(予算や所要時間)を削減する方法はありませんか?							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">照明や冷暖房等、日常的にコストの削減を徹底しているが、限界がある。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: black; color: white;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	照明や冷暖房等、日常的にコストの削減を徹底しているが、限界がある。	なし	
ある	理由 根拠	▶				照明や冷暖房等、日常的にコストの削減を徹底しているが、限界がある。	
なし							

事業名：遠距離通学送迎事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	補助
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

遠距離通学が必要な児童生徒

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 遠距離通学が必要な児童生徒数	人	112	122	112	112
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

登下校の予定時間に合わせ、委託先の会社がスクールバス及びスクールタクシーを運行し、児童生徒を送迎する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 延べ運行時間数	時間	4,047	4,178	3,692	4,400
活動指標 2 利用児童生徒数	人	112	122	112	112

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

居住する遠隔地から学校までの間を、安全に通学させる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 事故等により、スクールバスを運行できなかった便数	便	0	0	0	0
成果指標 2 事故等により、スクールタクシーを運行できなかった便数	便	0	0	0	0

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	51,232	51,852	47,983	56,050
正職員人件費 (B)	千円	3,809	3,814	3,844	3,871
総事業費 (A+B)	千円	55,041	55,666	51,827	59,921

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	スクールバス及びスクールタクシーの運行	・小学校 11,849千円 ・中学校 36,134千円

**事業開始背景**

本事業は、遠距離通学が必要な児童生徒を対象に、居住地から学校までの間を、安全に通学することを目的として開始した。

**事業を取り巻く環境変化**

平成23年度から、江北中学校の江別第三中学校への統合に当たり、スクールバス路線を増やし、平成25年度からは角山中学校の中央中学校への統合に当たり、スクールバス路線を増やした。平成27年度からは、新運賃・料金制度により委託料の大幅な増加が予想されることから、スクールバスのほか、スクールタクシーの運行を並行して実施している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	通学に際し、事故は発生していない。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	必要最小限の範囲を対象にしている。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	年により増減はあるものの、全体的に利用者数が減少傾向であることから、学校及び保護者と協議して、路線数や運行方法について検討する。
	なし		

事業名：学校施設整備事業（大規模改造）

総務課 施設係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学校

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内小中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

建築後20年以上経過したもの、教育内容・方法に適合しないもの、消防法等の法令に適合しないものについて、改造を行う。  
 ・屋根、外壁、建具等の改修  
 ・教室等の間取りの変更  
 ・設備機器の更新、新設 など

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	改修事業数	事業	2	5	2	0
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・経年変化による、損耗・機能低下を復旧する  
 ・教育環境を改善する  
 ・建物の耐久性を確保する  
 ・各種法令に適合させる

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	実施した事業数	事業	2	5	2	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	35,456	37,630	13,819	0
正職員人件費 (B)		千円	2,667	3,051	3,844	0
総事業費 (A+B)		千円	38,123	40,681	17,663	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	大麻中学校屋外避難階段建替実施設計委託 大麻東中学校屋外避難階段建替工事	大麻中学校屋外避難階段建替実施設計委託 大麻東中学校屋外避難階段建替工事	1,965千円 11,854千円

<b>事業開始背景</b>
教育環境として学校施設を維持し、耐久性を確保するためには、経年により通常発生する学校建物の損傷や機能低下に対する復旧措置及び教育ニーズの変化に応じた建物の用途変更に伴う改造等が必要であり、これらを実施する大規模改造が必要となってきた。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
総合的な学習、少人数指導など教育内容・方法の変更があり、従来の教室配置・間取りでは対応が難しくなっている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>各学校施設の不具合や老朽度等を検討した上で実施する工事を選定しており、各種工事による安全確保や環境維持としての成果は上がっている。</p>
上がっている		
どちらかといえば上がっている	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>学校施設では、不具合や老朽化等により改修や修繕を実施すべき部位が多くあり、工事を実施するほど、安全性を確保できる。</p>
成果向上余地 大		
成果向上余地 中	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	理由根拠	<p>安全性の確保には、継続的に修繕や改修工事をする必要がある。</p>
ある		
なし		

事業名： 中文連・中体連各種大会参加補助事業

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金 奨励的補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市中学校文化連盟（中文連）  
江別市中学校体育連盟（中体連）

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 連盟の会員数	人	3,650	3,533	3,506	3,523
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市中学校文化連盟及び江別市中学校体育連盟に対して、大会に参加するための経費の一部を補助する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 補助金額	千円	11,955	14,803	14,339	12,814
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

中学生の文化活動や、体育活動の振興を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 大会参加者数	人	2,800	2,857	2,684	2,684
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	11,955	14,803	14,339	12,814
正職員人件費 (B)	千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)	千円	13,479	16,328	15,876	14,362

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 中文連、中体連の各種大会や発表会に参加する経費の一部を補助する。 補助対象となる大会や発表会 ・中文連の吹奏楽コンクール、演劇発表会等 ・中体連の市内大会、管内大会、北海道大会、全国大会	中文連参加補助金 2,400千円 中体連参加補助金 11,939千円

**事業開始背景**

部活動に係る経費の一部を助成することで、保護者等の経済的負担を軽減し、多くの生徒が部活動に参加できる環境を整えるため補助を行っている。

**事業を取り巻く環境変化**

近年、生徒の移動や楽器の輸送に係るバス借上げ料の高騰があり、中文連（吹奏楽）について輸送費の大幅な上昇が見られる。また、中体連では、例年複数の中学校が全国大会に出場しており、過去3年間では団体競技の全国大会出場が続いている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	多くの生徒が目標を持って努力することによって、様々な困難を乗り越え心身共に鍛えられ、健康な体を育むことができる環境づくりに寄与している。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	連盟の会員数（中学校の生徒数）が減少しているが、大会参加者数（部活動加入者数）は横ばい状態であるため、成果向上の余地は少ない。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	江別市教育振興事業補助金交付規則、江別市中学校文化連盟大会派遣費等助成基準、中学校体育大会派遣費助成基準を基に、すべての各種補助金はもっとも経済的合理的な方法で算出している。
	なし		

事業名：奨学資金貸付金

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和41年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内在住の高校生

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内在住の高校生数	人	3,787	3,722	3,649	3,864
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

高等学校への修学意欲があるにもかかわらず経済的な理由により、修学困難な高校生に修学に必要な資金の一部を貸与する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	奨学資金申請者数	人	10	9	7	12
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

修学困難な高校生に教育を受ける機会を与える。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	奨学資金貸与認定者数	人	10	9	7	12
成果指標 2	奨学資金貸与者の就学率	%	100	100	100	100

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,953	1,623	1,311	2,269
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,075	3,096
総事業費 (A+B)		千円	5,762	5,437	4,386	5,365

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	奨学資金の貸与	報酬	35千円
		費用弁償	4千円
		貸付金	1,272千円

**事業開始背景**

教育基本法第4条第3項に規定する「国及び地方公共団体は、能力があるにもかかわらず、経済的な理由によって修学が困難な者に対して、奨学の措置を講じなければならない。」との精神に基づき、昭和41年度から制度化されている。

**事業を取り巻く環境変化**

今日の経済状況の格差や雇用環境の悪化が懸念される中、半ば義務教育化されている高等学校への修学に際し、あらゆる世帯に教育の機会を均等に与えることが重要である。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>上がっている</b></td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>予算規模を維持しつつ制度を周知することができているため、支援を必要とする者に対して適切に貸与することができている。</p> </td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	<b>上がっている</b>	理由 根拠	<p>予算規模を維持しつつ制度を周知することができているため、支援を必要とする者に対して適切に貸与することができている。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
<b>上がっている</b>	理由 根拠	<p>予算規模を維持しつつ制度を周知することができているため、支援を必要とする者に対して適切に貸与することができている。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>募集に際しては、申請漏れを防ぐため、市のHPへの掲載及び保護者宛や高等学校宛に案内文を配布するなどして制度の周知に努めている。加えて、経済的理由による修学困難者に対しては、外部有識者等で構成される審議会を経ることで適切に奨学金が貸与されている。</p> </td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td><b>成果向上余地 小</b></td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>募集に際しては、申請漏れを防ぐため、市のHPへの掲載及び保護者宛や高等学校宛に案内文を配布するなどして制度の周知に努めている。加えて、経済的理由による修学困難者に対しては、外部有識者等で構成される審議会を経ることで適切に奨学金が貸与されている。</p>	成果向上余地 中	<b>成果向上余地 小</b>
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>募集に際しては、申請漏れを防ぐため、市のHPへの掲載及び保護者宛や高等学校宛に案内文を配布するなどして制度の周知に努めている。加えて、経済的理由による修学困難者に対しては、外部有識者等で構成される審議会を経ることで適切に奨学金が貸与されている。</p>				
成果向上余地 中						
<b>成果向上余地 小</b>						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>必要に応じた最低限の貸与月額である。</p> </td> </tr> <tr> <td><b>なし</b></td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>必要に応じた最低限の貸与月額である。</p>	<b>なし</b>	
ある	理由 根拠	<p>必要に応じた最低限の貸与月額である。</p>				
<b>なし</b>						

事業名：教育扶助

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	補助
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学校児童生徒の保護者

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市内小中学校児童生徒保護者数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、就学に必要な経費の一部を支給する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 就学援助認定者数	人	1,782	1,622	1,564	1,570
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

児童生徒が等しく義務教育を受けられるようにする。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 就学援助認定率	%	20.4	18.7	18.2	18.3
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	192,566	171,560	155,503	185,600
正職員人件費 (B)	千円	9,142	9,152	7,687	7,741
総事業費 (A+B)	千円	201,708	180,712	163,190	193,341

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費、医療費等を支給する。	就学援助に必要な経費 155,503千円

<b>事業開始背景</b>
学校教育法第19条の規定に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、必要な援助を与えるもの。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
児童生徒保護者数が減少傾向にある。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>			
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？			
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	<p>経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に必要な学用品費等を支給しており、児童生徒が等しく義務教育を受けることができているため、成果は上がっている。</p>
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？			
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	<p>当事業により、経済的理由による不就学・不登校児童生徒は既に支給対象となっており、児童生徒が等しく義務教育を受ける環境は整っているため、成果向上余地は少ない。</p>
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？			
コスト	ある	理由根拠	<p>認定者数は減少傾向だが、毎年2,000件近くの申請を受けており、複数人によるチェック等で確実に認定処理等を行う必要があるため、現状、正職員人件費の削減は望めない状況である。 認定基準及び支給額についても、就学援助が必要な世帯に対して、就学に必要な最低限の額を支給しているところであり、コストを削減することは難しい状況である。</p>
	なし		

事業名：市内私立高校助成金

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育		戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内に私立高校を設置する学校法人

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内の私立高校数	校	2	2	2	2
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市私立学校補助金交付要綱」に基づき、私立高校の特色のある教育を支援又は教材教具の充実を図るために必要な補助をする。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	6,000	6,000	6,000	6,000
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

各校の建学精神に基づき個性豊かな教育活動を積極的に展開し、特色ある教育が一層促進できるようになる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	市内の中学校卒業生のうち、市内の私立高校に入学する生徒の割合	%	7	8	7	8
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	6,000	6,000	6,000	6,000
正職員人件費 (B)		千円	1,143	1,144	1,153	1,161
総事業費 (A+B)		千円	7,143	7,144	7,153	7,161

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市内私立高校に対し助成金を支出	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色のある教育を実施するための事業への補助金</li> <li>教材教具の整備事業への補助金</li> <li>その他教育委員会が必要と認める事業の補助金 6,000千円</li> </ul>	

<b>事業開始背景</b>
教育条件の維持・向上と充実、高校の健全な発展と振興による経営基盤の確立と安定を高め、公立、私立の機会均等と保護者負担の軽減を図るため、教材・教具整備及び学校運営に係る費用の一部について、平成7年度から補助金を交付している。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特色ある教育を比較検討するなど多様化が進み、その選択において私立高校を志望する気運も高まってきている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">現状の補助額は最低限と判断する。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	現状の補助額は最低限と判断する。	なし	
ある	理由 根拠	▶				現状の補助額は最低限と判断する。	
なし							

事業名：地域体験活動事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成14年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市内小中学生、保護者
- ・地域住民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・地域・学校・家庭と連携を図りながら、地域間や異世代との交流による体験活動を、子どもたちに提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	実施事業数	事業	3	4	3	2
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・体験活動を通して子どもの可能性を引き出すとともに、地域・学校・家庭が連携することにより、教育力の向上が図られる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	45	57	67	35
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	293	357	206	117
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,075	3,483
総事業費 (A+B)		千円	4,102	4,171	3,281	3,600

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	【生活体験】1泊2日の宿泊学習 【自然体験】ツリーイング	一般報償費	131千円
		消耗品費	75千円

**事業開始背景**

・平成15年度から市内で特色ある活動をしている小学校同士の地域間交流事業として「江別市体験活動ボランティア活動支援センター」と連携し、自然体験や農業・商業体験等を実施してきた。平成29、30年度には、支援センターと協議の上で、地域と連携した2泊3日の宿泊型体験事業を行ったが、平成30年度末をもって支援センターが休止。令和元年度からは、非日常の体験を子ども達に提供し、学力だけでは計れない感性・意欲・忍耐力などを育成することを旨として、新たに生活体験活動「1泊2日の宿泊学習」及び自然体験活動「ツリーイング」の2事業を実施している。

**事業を取り巻く環境変化**

- ・子どもの可能性を引き出す教育の実践が必要である。
- ・学校・家庭・地域が連携した生涯学習環境の構築が必要である。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：子ども会育成事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和36年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会（江別、野幌、大麻・文京台地区育成会）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	子ども会の数	団体	3	3	3	3
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会が取り組む、幅広い年齢層の子どもたちへの豊かな体験活動と各地区育成会の行う活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	878	758	737	737
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会及び各地区育成会が実施する事業への参加者数が増え、活動が活発化する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	子ども会活動への地域住民の参加延べ数	人	309	310	298	297
成果指標 2	子ども会活動の取り組み数	件	38	38	37	38

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	878	758	737	737
正職員人件費 (B)		千円	3,809	2,669	2,690	2,709
総事業費 (A+B)		千円	4,687	3,427	3,427	3,446

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生相撲大会、青少年キャンプ村、ドッチビー体験会、小中学生かるた大会の開催</li> <li>・こいのぼりフェスティバル、スノーフェスティバル等への協力</li> <li>・各地区育成会との連携、協力</li> <li>・ジュニアリーダー養成の支援</li> <li>・会議等の開催</li> <li>・活動団体に対し補助金を交付</li> </ul>	子ども会への補助金 737千円

事業開始背景
昭和30年代から増加した青少年の非行問題対策と青少年の健全育成のために地域の育成会が行う諸活動の円滑化を目的として開始した。
事業を取り巻く環境変化
少子化や地域社会のつながりが希薄化しているとともに、子どもたちも習い事や部活動等で忙しく、地域の大人と触れ合う機会が減少してきている。一方で、子どもを見守る大人たちの固定化、高齢化が顕著であり、大人の世代交代が課題となってきた。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：成人式開催事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	昭和33年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	行事イベント補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

成人のつどい実行委員会  
新成人

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	実行委員数	人	4	7	5	6
対象指標 2	新成人数	人	1,541	1,385	1,452	1,421

手段（事務事業の内容、手法）

- ・その年度に新成人となる青年で構成する実行委員会が、自ら企画準備して「成人のつどい」を開催する。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市成人のつどい実行委員会に対して、アトラクション出演謝礼、交歓会景品代など、成人のつどい開催に要する経費について補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	220	220	190	180
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・新成人を祝福・激励し、参加した新成人が責任ある自立した社会人として、よりよい社会の創造に貢献していくことを決意し、市民として連帯感を高めることを目的に実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	成人のつどい参加者数	人	952	855	861	865
成果指標 2	参加率	%	61.7	61.7	59.3	60.9

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	505	492	513	437
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	2,790	2,780	2,819	2,759

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 ・実行委員の募集 ・実行委員会の開催 ・成人対象者の抽出 ・案内葉書の作成、発送 ・しおり、封筒の作成 ・成人のつどい（式典・交歓会）の開催 ・実行委員会に対し補助金を交付	成人のつどいプログラム等印刷費 63千円 会場使用料 167千円 実行委員会への補助 190千円 案内状送料 93千円

**事業開始背景**

実行委員会形式による補助事業となったのは、大人としての自覚を促す式典を円滑かつ静粛に行うため、新成人からなる実行委員会と行政が協働することで一体感を持たせ、式典中の問題行動を抑える必要があったため。

**事業を取り巻く環境変化**

江別市では過去にモラルが問題になる行動はあったが、近年は大きな問題もなく安定している。また、成人式を真面目に受け止めている新成人が多くおり、式典を心待ちにしている新成人と家族が大多数である。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	少子化の影響もあり、成人のつどいの参加者数、出席率ともに減少傾向にある。
	どちらかといえば上がっている		
	<b>上がっていない</b>		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	今後も少子化の影響による新成人の減少が予想されるが、成人式を心待ちにしている人もおり、参加率の向上は見込める。
	<b>成果向上余地 中</b>		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	<b>ある</b>	理由 根拠	封筒印刷の外部発注を取りやめるなど、経費削減の余地はある。
	なし		

事業名：発明教室開設事業

【事業番号 465】  
生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育	戦略							
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策							
開始年度	平成 5年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・江別市少年少女発明クラブ

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	対象クラブ数	団体	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・小中学校への周知や市広報などを通して参加者を募集し、専任指導員のもものづくり教室を開講する。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、発明教室を運営する江別市少年少女発明クラブに対し、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	581	581	581	561
活動指標 2	開催回数	回	24	24	22	22

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・江別市少年少女発明クラブが開講する発明教室に子ども達が参加することにより、自らの手で作り上げることへの関心を高め、想像力を養い、集団活動や体験学習の経験を通して、協調性と豊かな創造性を身に付ける。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	作品展出品数	件	39	46	43	40
成果指標 2	延べ活動人数	人	356	404	383	440

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	581	581	581	561
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	2,866	2,869	2,118	2,109

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から1月：製作教室</li> <li>・夏冬の作品展示会</li> <li>・発明教室に対し補助金を交付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発明教室への補助 581千円</li> </ul>	

**事業開始背景**

・中央公民館で夏・冬休みに工作教室が行われていたが、青少年の物づくりの機会が減少していたことから、平成13年度から通年事業とし、作品展を開催するなど内容を充実させた。物づくりの技術のほか、他校の児童生徒との集団活動を通して協調性や社会性を育む場となっている。

**事業を取り巻く環境変化**

・平成17年度から少年少女発明教室に補助金を交付し、自主活動の促進を図る。  
 ・平成13年度から江別小学校の余裕教室利用対策としての位置付けから、江別小学校内の専用の工作室で活動していたが、同校の閉校に伴い、平成28年度から大麻東小学校の余裕教室で活動している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和55年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

- ・江別市青少年のための市民会議

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民会議の会員数（個人）	人	190	177	166	182
対象指標 2	市民会議の会員数（団体）	団体	57	55	54	56

**手段（事務事業の内容、手法）**

- ・江別市青少年のための市民会議が取り組む、青少年の健全育成等の啓発活動や、青少年の非行防止活動及び有害環境の点検活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、活動費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	129	129	120	120
活動指標 2						

**意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

- ・江別市青少年のための市民会議が行う活動が充実し、青少年を取り巻く環境が向上していく。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	主催事業協力者数	人	86	74	52	77
成果指標 2	非行防止標語応募件数	件	2,612	1,337	464	1,471

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	129	129	120	120
正職員人件費 (B)		千円	3,809	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	3,938	2,417	2,426	2,442

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	以下の事業内容を実施するため、補助金を支出する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年健全育成啓発などの標語募集、表彰</li> <li>・少年の主張石狩地区大会江別代表者の選考</li> <li>・青少年善行賞の選定、表彰</li> <li>・街頭啓発の実施</li> <li>・市民向け講演会の開催</li> <li>・会議等の開催</li> </ul>	・青少年のための市民会議への補助金 120千円

**事業開始背景**

・昭和50年代に青少年の非行が社会問題となり、地域ぐるみでの非行問題改善、青少年を取り巻く環境の浄化が必要となった。その流れを受け、昭和55年に市民により結成され、青少年の健全育成のための啓発活動等に取組んできている。

**事業を取り巻く環境変化**

・近年、SNSなどのインターネットを介した青少年の非行や犯罪が社会問題化しており、時代に即した青少年教育活動を取り入れる必要がある。  
 ・市民運動としての拡大充実を図ることに努めているが、会員の高齢化による退会者が年々増え、会員数が減少傾向にあり、会費を財源とする団体のため財政面で苦しい状況になってきている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	・健全育成標語の応募件数は減少してきているが、例年多くの応募がある。テーマに対する自分の意見を標語という形にして表現することで、児童生徒の意識向上につながっている。 ・諸事業への協力者は例年一定数おり、円滑に事業を行うことができているが、市民会議役員の固定化及び高齢化が進んでおり、世代交代を行う必要性がある。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	・情報化社会の進展に伴う青少年への影響を分析するなどして、事業内容を常に見直し、時代の流れに合った取組を適宜取り入れることで、成果が向上する余地がある。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	・会員を増加させるため加入促進を続けるなど自主財源の確保に努めているが、会員数は例年減少しているため、財政基盤が弱い。成果を落とさずに活動を行うためには、引き続き行政支援が必要である。
	なし		

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	昭和43年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小学校4年生から中学校3年生の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内の小学校4年生から中学校3年生の児童及び生徒数	人	5,848	5,773	5,869	5,911
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

自然体験事業として日常の生活から離れ、自然豊かな環境の中で青少年キャンプ村を1泊2日の日程で開設する。大学生、高校生からなるボランティアサークルの指導によりキャンプを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	キャンプ村開催日数	日	4	5	5	5
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

野外生活の楽しさを感じるとともに、異年齢との交流及び集団生活を通して、規律ある生活態度・生活技術を学び、子どもたちの協調性や社会性を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加グループ数	グループ	81	75	72	76
成果指標 2	青少年キャンプ村参加人数	人	419	374	334	376

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	800	625	643	724
正職員人件費 (B)		千円	4,571	4,576	3,459	3,483
総事業費 (A+B)		千円	5,371	5,201	4,102	4,207

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	8月上旬に江別市森林キャンプ場において、青少年キャンプ村を1泊2日の日程で開設する。 ※令和元年度はクマ出没の影響により、アースドリーム角山農場に会場変更 大学生、高校生からなるボランティアサークルの指導によりキャンプを行う。	生活指導員謝礼	336千円
		バス借上げ料	281千円

<b>事業開始背景</b>
昭和43年開始。 高度経済成長のもと、生活様式の急激な変化等により、自然の中で行われる総合的な野外活動の体験活動の取組が健全な青少年の育成にとって重要なものと認識されはじめた。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
50回以上開催している伝統のある事業であり、江別市の子ども達にとって野外体験活動の楽しさを知るイベントになっている。 森林キャンプ場は、札幌近郊にある整備されたキャンプ場として利用者が年々増えてきている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p><b>どちらかといえば上がっている</b></p> <p>上がっていない</p>
<p>リピーターが多く、参加児童生徒及び保護者の満足度が高いことから、成果は向上している。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p><b>成果向上余地 中</b></p> <p>成果向上余地 小</p>
<p>体験プログラムの充実や、事業のPR活動を強化することで参加人数が増える余地あり。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p><b>なし</b></p>
<p>受益者負担の観点から参加者から参加費を徴収し、市の負担は最小限となっており、これ以上のコスト削減は成果の低下を招く。</p>		

事業名：青少年文化賞顕彰事業

【事業番号 468】

生涯学習課 生涯学習係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	昭和62年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

小学生以上24歳以下の市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小学生以上24歳以下の市民	人	20,273	20,141	19,969	19,969
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

各種コンクール等において優秀な成績をおさめるなど、市内における芸術及び文化の振興に貢献した青少年に対し各賞を贈る。贈呈式は青少年スポーツ賞と共同開催している。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	審査会開催回数	回	3	3	3	3
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

創造性豊かな芸術、文化に対する意識を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	受賞者数	人	25	19	21	21
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	429	327	356	360
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	1,191	1,090	1,125	1,134

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・教育機関、文化団体等に対し該当者の推薦依頼を行い、推薦があった中から表彰基準を満たしたものについて、受賞歴やコンクールの内容等を精査し、庁議において審議の上、表彰者を決定する。	・盾代	356千円

<b>事業開始背景</b>
昭和62年に第1回文化賞・文化奨励賞の授与を開始。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
市内の各学校等において文化芸術教育への取組が盛んになり受賞対象者が増加傾向にある。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞実績の内容やレベルが向上している。また、過去の受賞者がその後も全国大会に出場する事例がある。</li> </ul>
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を行う個人・団体の意欲が向上し、優秀な成績をおさめる青少年の増加につながっている。</li> </ul>
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表彰楯を廃止して表彰状のみとすることは、表彰の意義の低下につながり、スポーツ表彰との整合性の観点からも難しい。</li> </ul>

事業名：問題行動対策事業

教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・児童生徒、保護者及び教育関係者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

- ・専任指導員、少年育成委員を配置し巡回街頭指導等を行う。
- ・小・中・高の生徒指導担当教員や市の子育て支援課、警察などで構成する江別市指導連絡会などにより関係機関の連携を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	巡回街頭指導実施回数	回	444	346	256	384
活動指標 2	関係機関連携会議開催回数	回	17	17	17	17

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・児童生徒による問題行動が発生しなくなる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	補導された小中学校児童生徒数	人	54	81	75	81
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	5,125	4,699	4,511	5,247
正職員人件費(B)		千円	5,714	5,720	7,303	6,580
総事業費(A+B)		千円	10,839	10,419	11,814	11,827

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	巡回街頭指導の実施 祭典巡回指導の実施 江別市指導連絡会の開催	専任指導員等報酬：4,281千円	

<b>事業開始背景</b>
児童生徒の非行防止のため
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
少年育成委員の人材不足等により巡回街頭指導の実施回数は制限されている。 今後も少年育成委員の確保に努めるほか、関係機関と連携を図りながら問題行動の早期発見、早期対応に取り組むことが必要である。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	江別市指導連絡会の開催等により、問題行動の防止に向けた関係機関との連携が適切に図られた結果と考えられる。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	少年育成委員の確保、問題行動の防止に向けた関係機関との連携のさらなる推進により成果が向上する余地はある。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	事業内容はマンパワーを必要とするものであり、各種ボランティアと協力しながら最低限の予算で事業遂行しているため、コスト削減は困難である。

事業名：いじめ・不登校対策事業

【事業番号 470】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・児童生徒、保護者及び教育関係者

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2 不登校児童生徒数	人	119	168	174	168

手段(事務事業の内容、手法)

- ・いじめ・不登校の専用窓口を開設し、専任指導員が教育相談に対応する。
- ・青年センターにスクールカウンセラーを配置し、カウンセリングにあたる。
- ・不登校児童生徒を対象に、すぼっとケア(学習支援)とケア事業(体験活動)を実施する。
- ・いじめ問題について、児童生徒が直接市教委へ訴える心のダイレクトメール事業を実施する。
- ・いじめ問題をテーマの一つとして中学生サミットを開催する。
- ・情報モラル普及啓発資料を作成、配布する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 いじめ・不登校相談件数	件	52	78	86	78
活動指標 2 すぼっとケア・ケア事業開催回数	回	116	122	121	124

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・いじめが解消される。
- ・不登校の児童生徒が再登校できるようになる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 いじめの解消率	%	100	78	99	78
成果指標 2 再登校率	%	22	14	16	14

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	5,921	5,264	5,378	6,173
正職員人件費(B)	千円	7,237	7,246	8,840	8,902
総事業費(A+B)	千円	13,158	12,510	14,218	15,075

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 ・いじめ・不登校の専用窓口開設 ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施 ・不登校児童生徒を対象に、すぼっとケア(学習支援)とケア事業(体験活動)の実施 ・心のダイレクトメール事業の実施 ・中学生サミットの開催 ・情報モラル普及啓発の実施	専任指導員等報酬：4,222千円 心のダイレクトメール事業経費：30千円 中学生サミット開催経費：55千円 情報モラル普及啓発経費：302千円

<b>事業開始背景</b>
いじめ・不登校の増加。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
不登校児童生徒数は全国的に増加傾向にあり、当市においても近年急増している。不登校児童生徒に対する支援は、段階的、継続的に行っていく必要があることから、この支援を行うすばとケア・ケア事業等は、重要度を増している。 いじめに関しては、平成29年度に「江別市いじめ防止基本方針」、「学校いじめ防止基本方針」を改定したところであり、今後においても関係機関と連携しながら、いじめの防止・早期発見に努めることが必要である。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p style="text-align: right;">不登校児童生徒一人ひとりに対する段階的、継続的な支援が行われた結果であると考えられる。 このほか、学校以外の社会との接点を持つなど、再登校には至らないものの状況に好ましい変化が見られた児童生徒も一定数確認されている。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p style="text-align: right;">心理的・情緒的側面が大きい問題であり、一人ひとり様々な対応が必要とされる。即効性は期待しがたく、年々入れ替わる児童生徒に対してそれぞれ第一歩からの対処が必要である。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
<p style="text-align: right;">人件費が主となる事業であり、また、相談業務等は個人情報観点からボランティアに馴染まないものであることを考慮し、コスト削減は困難である。</p>		

事業名：「心の教室」相談事業

【事業番号 472】  
教育支援課 主査（教育支援）

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成10年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・児童、保護者及び教育関係者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

・相談員（カウンセリング講座修了者や教員経験者など相談業務に携わった経験者）を学校に配置し、学校生活や日常の様々な悩みや困りごとの相談に応じる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	相談員配置学校数	校	18	17	17	17
活動指標 2	延べ相談時間	時間	5,309	5,273	4,967	5,273

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・児童、保護者、教育関係者の悩みが軽減、解消される。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	延べ相談件数	件	18,330	18,212	17,075	18,212
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	5,481	5,383	5,146	5,604
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	7,005	6,908	6,683	7,152

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	小学校 17校に心の教室相談員を配置し、児童、保護者、教育関係者の悩みや相談に対応	心の教室相談員報酬：5,094千円

<b>事業開始背景</b>
児童の学校生活に起因する悩みや不安を解消するため、心の教室相談員を配置し相談体制をつくる。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
悩みや困りごとを抱え、それに起因して問題行動等につながる児童生徒が低年齢化していること等に伴い、心の教室相談員が受ける年間相談件数は、高い水準で推移している。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	<b>理由根拠</b> 新型コロナウイルス感染症への対策として、市立小中学校が一斉臨時休校となったことにより相談件数は減少しているものの、休校期間を考慮すると前年度並みの相談件数となっていると考えられる。いじめ、不登校に関する相談や、相談室登校をする児童のケア、授業観察等を行い、学校側と情報共有しており、各配置校からは、いじめや不登校の未然防止や初期対応等に大きな効果があったと報告されている。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> 相談件数は高い水準で推移しており、相談内容は多岐にわたる。各配置校は配置時間の増加を希望しており、配置時間の増加により成果が向上することが考えられる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある なし	<b>理由根拠</b> 相談員の人件費が主となる事業であり、児童、保護者や教職員の相談を受ける相談員の配置は必要不可欠であることから、コスト削減は困難である。

事業名：地域一体型学校の顔づくり事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成13年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内市立小・中学校

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内市立小・中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりを進めるため、事業を行う小中学校に対し、事業費の一部を支援する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	事業実践項目数	項目	39	38	38	38
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

家庭・地域が一体となって事業を展開し「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりを進めることにより、教育の充実を図ることができるようになる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	地域住民等の事業への参加人数	人	7,597	7,451	8,878	7,600
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	3,338	3,265	3,105	2,966
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,153	1,935
総事業費 (A+B)		千円	5,243	5,172	4,258	4,901

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	各学校の事業に要する経費の一部を学校配分予算として支出	・講師の謝礼等	530千円
		・消耗品購入費	2,040千円

**事業開始背景**

本事業は、「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりの実現に向けて、各学校が地域の特性などを活かして実践項目を掲げ活動していくことにより、江別市全体の教育力を向上することを目的に、平成13年度から実施している。

**事業を取り巻く環境変化**

事業への参加人数は増加傾向にあり、活発な事業が展開されていると言える。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	16年度以降提案型に変更し、教職員自らが考え実施する事業になったため、より身近な学校の実態に合わせた事業として実施されるほか、年数の経過とともに事業（顔）として定着してきている。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	各学校が自校の特色（顔）に特化して事業に取り組むことで、学校の顔が鮮明となる。このことにより、児童生徒や教職員の取り組む意欲、さらには父母や地域住民の理解や信頼が増し、学校に対する信頼関係も強化される。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	各学校の実践する取り組みに、地域やPTAに密着したものを取り入れ、積極的に関わってもらうことで、コスト削減の可能性はある。
	なし			

事業名：スクールカウンセラー事業

【事業番号 616】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成 8年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・児童生徒、保護者及び教育関係者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

- ・小中学校にカウンセラー(臨床心理士等)を配置し、対象校の児童生徒をカウンセリングの対象として相談業務にあたる(報酬は北海道負担)。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	配置学校数	校	9	9	9	9
活動指標 2	延べ相談時間	時間	1,098	1,178	778	760

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・児童生徒、保護者、教育関係者の悩みが軽減、解消される。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	延べ相談件数	件	1,454	1,332	1,236	900
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	5	58	45	27
正職員人件費(B)		千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費(A+B)		千円	1,529	1,583	1,582	1,575

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	中学校8校、小学校1校にスクールカウンセラーを配置し相談業務にあたる。	配置校消耗品費：45千円	

**事業開始背景**

学校における教育相談体制の充実を図るために、臨床心理士等をスクールカウンセラーとして配置し、専門的カウンセリング体制を整備する。

**事業を取り巻く環境変化**

スクールカウンセラーは、学校内におけるいじめ・不登校の多発等に対応して、児童生徒等の心の問題に専門的に関わることのできる専門家が必要との認識のもと配置された。  
道の委託事業であり、人件費は道が負担しているが、近年の不登校児童生徒の増加に伴いカウンセリングの対象児童が増加している一方で、道の予算が削減され相談時間数は減少している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	道の予算削減に伴い相談時間数、件数ともに減少しているものの、スクールカウンセラーによるカウンセリングの対象児童生徒は増加しているうえ、不登校児童生徒等に対するカウンセリング等の効果が確認されている。各配置校は配置時間の増加を希望しており、配置時間の増加により成果が向上することが考えられる。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	配置時間数の増加により、相談体制の充実が可能である。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	必要最低限の消耗品費しか計上しておらず、コスト削減は困難である。
	なし		

事業名：社会人による教育活動等支援事業

学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成18年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学校の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

教育活動の講師として、文化・芸術など多岐にわたる分野から、幅広い専門的知識等を有する社会人を活用するための費用を負担する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	社会人を活用した授業を申請した学校数	校	9	11	12	25
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

社会人を活用した教育活動を実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	社会人を活用した授業を実施した学校数	校	9	11	8	25
成果指標 2	社会人を活用した授業を実施した回数	校	14	14	9	25

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	471	404	405	560
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	1,233	1,167	1,174	1,334

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	文化・芸術・体育・仕事など多岐にわたる分野から、幅広い専門的知識等を有する社会人を教育活動の講師として活用するための支援を行う。	報償費	405千円

<b>事業開始背景</b>
様々な分野で秀でた社会人を各学校に派遣し、実践的かつ質の高い授業を行うことで、児童生徒の学習意欲や学力向上を図るほか、職業観等の育成を図る。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
「社会に開かれた教育課程」を重視する新学習指導要領が平成29年3月に告示され、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から施行される。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休校の影響により、平成30年度に比べ、実施回数は減となったものの、幅広い知識等を有する社会人講師による授業を受けることにより、児童生徒の学習意欲等が向上し、将来設計意識、職業観等の育成が図られた。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休校の影響により、平成30年度に比べ、実施回数は減となったものの、幅広い知識等を有する社会人講師による授業を受けることにより、児童生徒の学習意欲等が向上し、将来設計意識、職業観等の育成が図られた。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休校の影響により、平成30年度に比べ、実施回数は減となったものの、幅広い知識等を有する社会人講師による授業を受けることにより、児童生徒の学習意欲等が向上し、将来設計意識、職業観等の育成が図られた。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">令和元年度から、学校への実施希望調査を行う際に、教育委員会で把握している指導者情報を学校へ提供しており、学校が事業を活用しやすくなることが見込まれることから、成果向上が期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	令和元年度から、学校への実施希望調査を行う際に、教育委員会で把握している指導者情報を学校へ提供しており、学校が事業を活用しやすくなることが見込まれることから、成果向上が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				令和元年度から、学校への実施希望調査を行う際に、教育委員会で把握している指導者情報を学校へ提供しており、学校が事業を活用しやすくなることが見込まれることから、成果向上が期待できる。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2">専門的知識を有する社会人講師を活用するにあたり、現状より報酬額を引き下げるとは難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	専門的知識を有する社会人講師を活用するにあたり、現状より報酬額を引き下げるとは難しい。	なし	
ある	理由 根拠	▶				専門的知識を有する社会人講師を活用するにあたり、現状より報酬額を引き下げるとは難しい。	
なし							

事業名：特別支援教育推進事業

【事業番号 768】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成18年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市内公立小中学校に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数	人	506	570	654	654
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

特別支援教育支援員(通常学級)の配置、専門家チームの巡回相談等による学校や保護者への助言、研修会の開催による教員や支援員の能力向上、その他環境整備等を通じて支援を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	巡回相談等実施回数	回	175	191	197	175
活動指標 2	特別支援教育支援員(通常学級)の配置数	人	31	33	35	35

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

教員が児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて長期目標・短期目標を盛り込んだ個別の教育計画に沿って、適切な教育を行うことにより、対象児童生徒が生活や学習上の困難を改善・克服する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	通常学級で個別の教育支援計画を作成している学校の割合	%	66.7	83.3	100	100
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	47,482	38,467	36,605	38,283
正職員人件費(B)		千円	7,237	7,246	8,456	8,128
総事業費(A+B)		千円	54,719	45,713	45,061	46,411

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員(通常学級)の配置</li> <li>特別支援教育専門家チームの運営</li> <li>特別支援教育に係る設備整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員(通常学級)等の報酬：34,734千円</li> <li>巡回相談員の謝礼等：477千円</li> <li>教育環境整備工事：993千円</li> </ul>	

**事業開始背景**

障がい種別の多様化  
 平成19年度から特別支援教育の対象とされていなかったLD（学習障害）、ADHD（多動性障害）等の障がいについても、適切な教育的支援を行う「特別支援教育」へ移行され、特別支援学級だけではなく、通常学級の特別支援の必要な児童生徒に対しても介助を要するようになった。

**事業を取り巻く環境変化**

平成24年度において、中央教育審議会の特別委員会や内閣府の障がい者制度改革推進会議から「インクルーシブ教育」（包容する教育）をめぐる議論の最終報告が出され、今後、障がいのある子もいない子も共に地域の小・中学校の通常の学級で学ぶための環境整備が進められている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>上がっている</b></td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">                     通常の学級に支援員を配置することで、特別な支援を必要とする児童生徒に効果的な学習等の支援を行うことができた。また、専門家チームの巡回相談により、学校や保護者に専門的な視点から助言や支援を行った。また、管理職・コーディネーター等に研修を行い、支援側の専門性の向上を図ることができた。                 </td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	<b>上がっている</b>	理由 根拠	通常の学級に支援員を配置することで、特別な支援を必要とする児童生徒に効果的な学習等の支援を行うことができた。また、専門家チームの巡回相談により、学校や保護者に専門的な視点から助言や支援を行った。また、管理職・コーディネーター等に研修を行い、支援側の専門性の向上を図ることができた。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
<b>上がっている</b>	理由 根拠	通常の学級に支援員を配置することで、特別な支援を必要とする児童生徒に効果的な学習等の支援を行うことができた。また、専門家チームの巡回相談により、学校や保護者に専門的な視点から助言や支援を行った。また、管理職・コーディネーター等に研修を行い、支援側の専門性の向上を図ることができた。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>成果向上余地 大</b></td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">                     小中学校に対し、専門家による支援の場や研修等の機会をさらに増やしていくことにより、特別支援教育が充実し、成果が向上することが期待される。                 </td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	<b>成果向上余地 大</b>	理由 根拠	小中学校に対し、専門家による支援の場や研修等の機会をさらに増やしていくことにより、特別支援教育が充実し、成果が向上することが期待される。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
<b>成果向上余地 大</b>	理由 根拠	小中学校に対し、専門家による支援の場や研修等の機会をさらに増やしていくことにより、特別支援教育が充実し、成果が向上することが期待される。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">                     学校現場において、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の数は年々増加の傾向にあり、指導体制の充実を図るため、支援員の配置、専門家チームによる巡回相談が必要である。                 </td> </tr> <tr> <td><b>なし</b></td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	学校現場において、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の数は年々増加の傾向にあり、指導体制の充実を図るため、支援員の配置、専門家チームによる巡回相談が必要である。	<b>なし</b>	
ある	理由 根拠	学校現場において、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の数は年々増加の傾向にあり、指導体制の充実を図るため、支援員の配置、専門家チームによる巡回相談が必要である。				
<b>なし</b>						

事業名：キャリア教育推進事業

【事業番号 769】  
 学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成18年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内公立中学校の生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内公立中学校の生徒数	人	3,091	2,978	2,947	2,921
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

連続2日間、生徒が事業所において職場体験する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	職場体験受け入れ事業所数	所	112	121	123	120
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

自己の進路や職業観を養う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	キャリア教育参加生徒数	人	823	849	749	779
成果指標 2	自分の進路や将来の生き方を考えるきっかけとなった生徒の割合	%	79	78	77	78

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	557	661	611	626
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,075	3,096
総事業費 (A+B)		千円	4,366	4,475	3,686	3,722

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	公立中学校の生徒が事業所において連続する2日間の職場体験を行う。	・ マナー研修等経費	132千円
		・ 職場体験実施に係る経費	479千円

**事業開始背景**

フリーター、ニート等の増加が社会問題化し、義務教育段階からのキャリア教育が必要と判断されたため。

**事業を取り巻く環境変化**

地域の子どもは地域が育てるといふ企業の社会責任が意識されてきている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	職場体験を通して、自分の進路や将来の生き方を考えるきっかけになった生徒の割合が目標値である70%に達している。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	市内には中小企業が多く、生徒を受け入れることで事業所側では追加の人員配置が必要となるなど、昨今の経済状態も相まって大きな負担感を感じている事業所が少なくない。そういった意味で、市内での新たな受け入れ先を開拓することは困難となってきている。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	各事業所のスタッフとして働くためには、事前のマナー研修や、受け入れ事業所への礼状送付は必須であり、その意味での必要最低限の経費である。
	なし		

事業名：学校給食食器更新事業

給食センター 業務係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成19年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市学校給食用食器検討委員会において、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	食器更新・追加数	個	3,344	17,986	3,765	4,100
活動指標 2	検討委員会開催数	回	4	0	0	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

安全、安心な食器で喫食することにより、楽しく食事し、豊かな心が育つ。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	食器破損率	%	6.63	6.02	5.63	6
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,144	384	387
総事業費 (A+B)		千円	1,524	1,144	384	387

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	安全、安心な食器を提供するため、破損した食器の補充管理、食器についての情報収集を行う。	人件費事業	

事業開始背景
様々な素材の食器が生産される中、プラスチック製品には様々な化学物質が使用されている。より安全、安心な食器を学校給食で使用するため、平成19年度に検討委員会を設置した。
事業を取り巻く環境変化
様々な素材の食器が日々生産されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">安全、安心な食器を使用することで、食事の楽しさの一端を担っている。食器破損数の増加は、経年劣化も要因として考えられるが、破損数の減少は、食器の扱いに慎重になったとも考えられ、一概に成果を判断することは難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	安全、安心な食器を使用することで、食事の楽しさの一端を担っている。食器破損数の増加は、経年劣化も要因として考えられるが、破損数の減少は、食器の扱いに慎重になったとも考えられ、一概に成果を判断することは難しい。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				安全、安心な食器を使用することで、食事の楽しさの一端を担っている。食器破損数の増加は、経年劣化も要因として考えられるが、破損数の減少は、食器の扱いに慎重になったとも考えられ、一概に成果を判断することは難しい。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">令和元年度に給食用箸を更新したことで、児童・生徒に安全で安心な給食を提供している。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	令和元年度に給食用箸を更新したことで、児童・生徒に安全で安心な給食を提供している。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				令和元年度に給食用箸を更新したことで、児童・生徒に安全で安心な給食を提供している。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">給食を安全に喫食するために必須な、皿及び箸の更新である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	給食を安全に喫食するために必須な、皿及び箸の更新である。	なし	
ある	理由 根拠	▶				給食を安全に喫食するために必須な、皿及び箸の更新である。	
なし							

事業名：小中学校学習サポート事業

【事業番号 864】  
学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略	2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	(2) 教育内容の充実					
開始年度	平成21年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内公立小中学校の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内公立小中学校の児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

放課後の学習支援や、複数の教員が役割を分担し協力し合いながら指導する「チーム・ティーチング」などの学校支援を行う学習サポート教員（教員資格者）や、書写やミシンなど、教科指導以外での学校支援を行う学校支援地域ボランティアを募集し、市内小中学校（全25校）に派遣する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	学習サポート教員の登録人数	人	38	37	34	34
活動指標 2	学校支援地域ボランティアの登録人数	人	72	53	82	48

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校における、多様な学習機会を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	学習サポート教員の年間派遣回数	回	3,625	3,452	3,252	3,470
成果指標 2	学校支援地域ボランティアの年間派遣回数	回	431	477	479	459

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	9,282	8,896	8,494	9,223
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,844	3,096
総事業費 (A+B)		千円	13,091	12,710	12,338	12,319

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校の全校に学習サポート教員及び学校支援地域ボランティアを派遣する。</li> <li>一校あたり学習サポート教員を平均139回、学校支援ボランティアを平均18回派遣する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習サポート教員派遣経費 6,504千円</li> <li>コーディネーター報酬等 1,990千円</li> </ul>	

<b>事業開始背景</b>
平成19、20年度の全国学力学習状況調査において、北海道が下から2番目という調査結果を受け、全道をあげて学力向上を目指しているところであるが、江別市においても、平成20年度江別市学校改善支援プランを作成し、その中で、江別市が学校に対する支援の一環として、児童・生徒の学力向上のためのボランティア等による授業サポート事業の実施を掲げた。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
年金の支給開始年齢が引き上げられたことに伴い、定年退職後、再任用職員となる教員が増加したため、退職教員を活用した学習サポート教員の人材確保が難しくなりつつある。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

事業名：子どものための読書環境整備事業

情報図書館 主査(奉仕・事業)

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	平成18年度	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市内の子どもとボランティア

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市内小中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

- ・司書教諭等と連携して多様な読書活動を企画・実施し、学校図書館サービスの改善・充実を図るため、市内小・中学校を巡回する司書と支援司書を配置する。
- ・児童生徒の自ら学ぼうとする意欲を喚起し、学力の向上を後押しするため、児童生徒の朝読書や調べ学習、総合的な学習の時間などの学校が行う教育活動を支援する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 司書巡回学校数	校	6	6	7	7
活動指標 2 司書短期間支援学校数	校	0	12	17	16

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・児童生徒が発達の段階に応じて読書の楽しさを知り、読書の幅が広がり、読書体験が深まるようになる。
- ・児童生徒が読書活動を通じて生涯にわたり絶えず自発的に学ぼうとする意欲や習慣が身に付くようになる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 司書巡回によって増加した貸出冊数	冊	3,058	959	1,340	1,200
成果指標 2 司書巡回期間のボランティア活動回数	回	33	24	7	7

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	5,571	5,885	5,952	8,246
正職員人件費(B)	千円	4,571	4,576	4,612	4,645
総事業費(A+B)	千円	10,142	10,461	10,564	12,891

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書による学校図書館の環境整備への支援</li> <li>・司書による学習支援</li> <li>・司書と学校図書館ボランティアとの協働による支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員報酬(巡回司書3名、支援司書1名) 5,690千円</li> <li>・資料整理等の消耗品 162千円</li> <li>・団体貸出用図書、朝読書、調べ学習用図書購入費 100千円</li> </ul>

**事業開始背景**

平成13年12月に策定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」の本旨に基づき、学校図書館の環境を整備し、児童生徒の利用を促進する目的で、平成18年度から学校図書館への司書の巡回を開始した。

**事業を取り巻く環境変化**

- ・「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定（平成13年12月）
- ・「文字・活字文化振興法」の制定（平成17年7月）
- ・「江別市子どもの読書活動推進計画」を策定（平成18年度）
- ・「第2期江別市子どもの読書活動推進計画」を策定（平成26年度）
- ・「学校図書館法」一部改正により、学校司書が法制化される（平成27年4月）
- ・国の「学校図書館ガイドライン」の制定（平成28年11月）
- ・国の「学校図書館図書整備等5ヶ年計画」の制定（平成29年度）
- ・「第3期江別市子どもの読書活動推進計画」を策定（令和元年度）

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	情報図書館の司書が巡回して読書環境の整備を支援することにより、児童・生徒や授業での学校図書館の利用につながっている。 また、巡回校への一定期間の支援のほか、平成29年度から各校への短期間支援を行うことによって、環境整備の拡充が図られた。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	これまで事業を実施してきたことにより、各校の学校図書館の環境が整ってきている状況であり、今後も継続して取り組みを進めていくことで成果が向上する余地がある。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	運営コストは、職員報酬、図書購入費等であり、削減の余地は少ない。
	なし		

事業名：食育推進事業

給食センター 業務係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成21年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小中学校児童生徒等

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市学校給食食育運営委員会において取りまとめた「江別市の公立小中学校における食育の推進」により示した方向性に従い、学校が進める食育に関する活動及び事業に対して、必要な指導、援助を行う。  
栄養教諭が、学校教育課程の中で「食に関する指導」を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	運営委員会開催数	回	0	0	0	0
活動指標 2	栄養教諭による「食に関する指導」実施学級数	学級	310	313	323	330

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

食事の重要性を理解し、食事の自己管理能力や食品を選択する能力を身に付けることによって、豊かで健全な食生活を実践することができる人間が育つ。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合	%	86.4	83.5	83.4	85
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	381	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	381	1,525	1,537	1,548

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	栄養教諭が、学校教育課程の中で「食に関する指導」を行う。	人件費事業	

**事業開始背景**

食育基本法が制定され、市内の小中学校児童生徒等に食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせることが必要とされた。

**事業を取り巻く環境変化**

食育基本法に基づき、平成23年12月に「江別市食育推進計画」が策定され、平成31年3月に第3次計画が策定された。  
また、江別市学校給食食育運営委員会において「江別市の公立小中学校における食育の推進」を取りまとめて各学校に配布し、今後の食育推進のための基本的な方向性を示している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	令和元年度、江別市学校給食食育運営委員会の開催はなかったが、食育の推進に関する方向性に基づき、市内各校において推進に努めている。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	食育の推進に関する方向性に基づいた助言・指導をもとに、各校での食育の活動が活発化することで成果は向上していくが、目に見える成果が出るには時間が掛かると考えられる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	事業費はない。
	なし			

事業名：児童生徒体力向上事業

【事業番号 880】  
 学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成22年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内公立小中学校の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2	モデル校の児童数	人	154	177	169	184

手段（事務事業の内容、手法）

体力向上に係る実践研究を行っている北翔大学の協力のもと、近隣に位置する文京台小学校をモデル校に指定し、教授と学生が学校を訪問のうえ、朝の時間を利用して「朝運動プログラム」を実施するとともに、モデル校以外で体力向上の取組が広がるよう、朝運動プログラムの普及出前授業（年5校予定）を実施する。  
 また、運動に親しむ環境づくりの充実を図るため、小学校及び中学校での1校1実践の取組の継続的な実施。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	体力向上に取り組んだ回数（モデル校及び普及出前授業実施校）	回	31	34	33	35
活動指標 2	「朝運動プログラム」を実践した児童数	人	90	246	283	255

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

体を動かすことを楽しいと感じてもらうとともに、児童生徒の体力向上を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	児童生徒で体力が向上した割合（モデル校）	%	83	92	67	86
成果指標 2	運動が好きな児童生徒の割合	%	87	87	88	87

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	635	635	647	648
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	1,548
総事業費 (A+B)		千円	2,920	2,923	2,953	2,196

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校1校をモデル校とし、基礎的な動きを組み入れた運動を継続的に行える体力向上のための取組を行い、その効果と検証を行う。</li> <li>江別市体力向上「朝運動プログラム」事業普及のための出前講座を市内小学校（5校予定）にて行う。</li> </ul>	北翔大学への委託料 647千円	

<b>事業開始背景</b>
北海道では、平成20年度から実施された「全国体力・運動能力・運動習慣調査」において、全国と比べて体力不足が明らかとなった。 この現状を受け、江別市としても従前から体力向上に係る研究・分析を行っている北翔大学のノウハウを体力向上に活用するため、北翔大学の近隣に位置する文京台小学校をモデル校として指定し、本事業を開始したところである。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
現行の学習指導要領では、変化の激しい社会を担う「生きる力」の育成が基本理念となっており、この「生きる力」の要素の1つに「たくましく生きるための健康や体力」がある。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>朝運動プログラムに取り組む前後の体力測定の結果、約7割の項目で改善が見られた。 また、モデル校では、朝運動プログラムのジュニアリーダーが育成され、1年生の指導を行っている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>朝運動プログラムに取り組む前後の体力測定の結果、約7割の項目で改善が見られた。 また、モデル校では、朝運動プログラムのジュニアリーダーが育成され、1年生の指導を行っている。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>朝運動プログラムに取り組む前後の体力測定の結果、約7割の項目で改善が見られた。 また、モデル校では、朝運動プログラムのジュニアリーダーが育成され、1年生の指導を行っている。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>朝運動プログラム普及出前授業は、平成30年度までに全学校で一巡しており、令和元年度からは、毎年5校ずつ実施している。今後、令和元年度までの取組内容に必要な改善等を行い、各学校での更なる普及を図ることで、成果の向上が期待できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>朝運動プログラム普及出前授業は、平成30年度までに全学校で一巡しており、令和元年度からは、毎年5校ずつ実施している。今後、令和元年度までの取組内容に必要な改善等を行い、各学校での更なる普及を図ることで、成果の向上が期待できる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>朝運動プログラム普及出前授業は、平成30年度までに全学校で一巡しており、令和元年度からは、毎年5校ずつ実施している。今後、令和元年度までの取組内容に必要な改善等を行い、各学校での更なる普及を図ることで、成果の向上が期待できる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？						
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>児童生徒が意欲的に興味を持って取り組めるような、専門的見地からの朝運動プログラムの開発とその効果について、引き続き北翔大学と連携して検証する必要があるため、予算を削減することは難しい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>児童生徒が意欲的に興味を持って取り組めるような、専門的見地からの朝運動プログラムの開発とその効果について、引き続き北翔大学と連携して検証する必要があるため、予算を削減することは難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>児童生徒が意欲的に興味を持って取り組めるような、専門的見地からの朝運動プログラムの開発とその効果について、引き続き北翔大学と連携して検証する必要があるため、予算を削減することは難しい。</p>				
なし						

事業名：特別支援教育就学奨励費

【事業番号 952】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成23年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市内小中学校特別支援学級及び通級指導教室に通学する児童生徒の保護者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校特別支援学級及び市内小学校通級指導教室に通学する児童生徒の保護者	人	307	350	374	391
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

特別支援教育就学奨励費が必要な保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費、通学費等を支給する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	208	217	220	233
活動指標 2	通学費認定者数	人	146	153	148	182

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

経済的な理由で児童生徒の就学に必要な経費を捻出することが困難な保護者を助成することにより、児童生徒が等しく義務教育を受けられるようにする。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	特別支援教育就学奨励費認定率	%	67.8	62	58.8	60
成果指標 2	通学費認定率	%	47.6	43.7	39.6	47

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	5,595	5,695	5,927	8,629
正職員人件費(B)		千円	3,048	3,051	5,381	4,645
総事業費(A+B)		千円	8,643	8,746	11,308	13,274

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	・学用品費、給食費、修学旅行費、通学費等の一部補助 ※「要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金要綱」に基づき、支出の2分の1が補助される。	・学用品費、給食費、修学旅行費、通学費等の一部補助 小学校：4,022千円 中学校：1,905千円	

**事業開始背景**

特別支援学校への就学奨励に関する法律に基づき、障がいのある児童生徒が小中学校の特別支援学級等で学ぶ際に、保護者が負担する教育関係経費について、就学の特殊事情に鑑み、保護者の経済的負担を軽減するため、家庭の経済状況等に応じ、補助を行っている。

**事業を取り巻く環境変化**

少子化及び雇用状況等の悪化  
少子化により、児童数が減少しているが、雇用状況の悪化や離婚数の増加に伴い、低収入の世帯が増加しているため、認定者数が増加している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減することに貢献している。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減することに貢献している。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減することに貢献している。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">国庫補助金に基づき補助しているため、これ以上の成果向上は困難である。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	国庫補助金に基づき補助しているため、これ以上の成果向上は困難である。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				国庫補助金に基づき補助しているため、これ以上の成果向上は困難である。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">当事業の対象児童生徒数が増加傾向にあり、一定の基準に基づき認定作業を行うことから、コスト削減は困難である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	当事業の対象児童生徒数が増加傾向にあり、一定の基準に基づき認定作業を行うことから、コスト削減は困難である。	なし	
ある	理由 根拠	▶				当事業の対象児童生徒数が増加傾向にあり、一定の基準に基づき認定作業を行うことから、コスト削減は困難である。	
なし							

事業名：スクールソーシャルワーカー事業 教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育	戦略	2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	(2) 教育内容の充実					
開始年度	平成23年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

- ・児童生徒、保護者及び教育関係者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

- ・課題を抱える児童生徒の置かれている環境への働きかけ
- ・学校や関係機関との連携や調整
- ・保護者や学校等に向けての情報提供、相談支援

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	スクールソーシャルワーカー配置人数	人	2	3	3	3
活動指標 2	延べ相談支援件数	件	1,201	1,165	1,340	1,165

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・児童生徒、保護者の抱える課題が解決される。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	支援ケース件数	件	99	136	147	136
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	4,500	6,751	6,750	7,459
正職員人件費(B)		千円	1,524	1,525	1,537	3,096
総事業費(A+B)		千円	6,024	8,276	8,287	10,555

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	スクールソーシャルワーカーが、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や経験を用いて、課題を抱える児童生徒に対して相談支援を行う	スクールソーシャルワーカー報酬：6,728千円	

**事業開始背景**

児童生徒の問題行動の背景には、心の問題とともに置かれている環境の課題が複雑に絡み合っていることがあり、関係機関と連携した働きかけが必要である。

**事業を取り巻く環境変化**

平成20年度からはじまったスクールソーシャルワーカー事業は、その職務や有効性に関する理解が小中学校に浸透してきていることや、不登校児童生徒数が増加していること等に伴い、支援ケース数が増加している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	小中学校単独での対応が困難な課題を抱える児童生徒や保護者等に対し、関係機関と連携して対応することにより課題の改善が図られている。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	スクールソーシャルワーカーの役割や活用方法について、小中学校等の理解が進んできている。これにより、小中学校からの適切な派遣要請に対応することで、成果の向上が期待される。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	スクールソーシャルワーカーの人件費が主となる事業であるが、相談内容は複雑化・困難化しているため、福祉分野等の専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーの配置は必要不可欠であることから、コストの削減は困難である。
	なし		

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金
			団体運営補助

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

江別市中学校文化連盟（中文連）  
江別市中学校体育連盟（中体連）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	連盟の会員数	人	3,650	3,533	3,506	3,523
対象指標 2						

**手段（事務事業の内容、手法）**

「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、市内中文連、中体連に対し、必要経費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	1,351	1,307	1,297	1,304
活動指標 2						

**意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

各種大会を実行するための中文連・中体連の組織の健全な運営を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	中文連・中体連大会開催数	回	14	14	15	15
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,351	1,307	1,297	1,304
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	2,113	2,070	2,066	2,078

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市内中文連、中体連が負担する石狩管内中学校文化連盟の負担金及び石狩管内中学校体育連盟の負担金を補助する。	市内中学校文化連盟負担金	350千円
		市内中学校体育連盟負担金	947千円

<b>事業開始背景</b>
中学生の文化活動、体育活動を支援するため、基礎的な費用である石狩管内の各連盟負担金を補助することとした。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
中学校の生徒数は減少しているが、部活動加入者は全生徒の8割程度を維持している。平成28年度以降、大会開催数は減少傾向にある。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">毎年、中文連・中体連の大会を開催している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	毎年、中文連・中体連の大会を開催している。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	毎年、中文連・中体連の大会を開催している。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">各種大会を実行するための健全な運営が保たれているため、成果が向上する余地が少ない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	各種大会を実行するための健全な運営が保たれているため、成果が向上する余地が少ない。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	各種大会を実行するための健全な運営が保たれているため、成果が向上する余地が少ない。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">石狩管内中文連・中体連の規約に基づいて請求された負担金（単価×人数）で予算を算定しており、削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	石狩管内中文連・中体連の規約に基づいて請求された負担金（単価×人数）で予算を算定しており、削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	石狩管内中文連・中体連の規約に基づいて請求された負担金（単価×人数）で予算を算定しており、削減は難しい。				
なし						

事業名：小中学校外国語教育支援事業

【事業番号 6209】  
 学校教育課 学校教育係

政策	06 子育て・教育	戦略	2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	(2) 教育内容の充実					
開始年度	平成28年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内公立小中学校の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内公立小中学校の児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

市内公立小中学校に、外国語の授業を支援する外国語指導助手（10名）を派遣する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	外国語指導助手が入った授業の年間時数	時数	5,444	6,244	5,826	5,963
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

諸外国の生活や文化等について理解を深め、児童生徒のコミュニケーションに関する関心を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	外国語指導助手との外国語の授業を楽しいと考える児童生徒の割合	%	83	87	83	84
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	27,443	34,128	34,521	34,953
正職員人件費 (B)		千円	6,856	6,864	6,150	6,193
総事業費 (A+B)		千円	34,299	40,992	40,671	41,146

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の授業において、複数の教員が役割を分担し協力し合いながら指導する「チーム・ティーチング」などの学習支援を行う。</li> <li>・長期休業中（夏季及び冬季）における外国語活動の実施。</li> </ul>	外国語指導助手報酬32,983千円

<b>事業開始背景</b>
社会のグローバル化が急速に進む中で、英語力の一層の充実を図っていくことが大きな課題となっており、ネイティブスピーカーと接する機会を通じて、子どもたちの異文化理解やコミュニケーション能力の向上等が求められている。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
令和2年度からの新学習指導要領に基づき、小学校3・4年生の外国語活動においては年間15時間から年間35時間に、小学校5・6年生の外国語科においては年間50時間から年間70時間に、授業時数が増加した。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">10名の外国語指導助手を市内小中学校すべてに派遣することで、一定の成果が上がっている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	10名の外国語指導助手を市内小中学校すべてに派遣することで、一定の成果が上がっている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	10名の外国語指導助手を市内小中学校すべてに派遣することで、一定の成果が上がっている。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">外国語指導助手の派遣可能時数には限りがあり、現在、最大限外国語指導助手を学校へ派遣している状況であるため、外国語指導助手の更なる派遣は困難であり、成果向上余地はない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	外国語指導助手の派遣可能時数には限りがあり、現在、最大限外国語指導助手を学校へ派遣している状況であるため、外国語指導助手の更なる派遣は困難であり、成果向上余地はない。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	外国語指導助手の派遣可能時数には限りがあり、現在、最大限外国語指導助手を学校へ派遣している状況であるため、外国語指導助手の更なる派遣は困難であり、成果向上余地はない。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">外国語指導助手の派遣時数と成果指標は相関関係にあるため、コストを削減し、成果を維持することは困難である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	外国語指導助手の派遣時数と成果指標は相関関係にあるため、コストを削減し、成果を維持することは困難である。	なし	
ある	理由 根拠	外国語指導助手の派遣時数と成果指標は相関関係にあるため、コストを削減し、成果を維持することは困難である。				
なし						

事業名：コミュニティ・スクール事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内市立小・中学校

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内市立小・中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

全小中学校の学校運営委員会委員に報酬を支給するとともに、各学校運営委員会を支援する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	コミュニティ・スクール設置校	校	26	25	25	25
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校・地域・家庭が、目指す子ども像を共有し、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	学校運営委員会開催回数	回	76	75	76	75
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,581	1,757	1,590	1,679
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,844	3,871
総事業費 (A+B)		千円	5,390	5,571	5,434	5,550

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	学校運営委員会を運営するための経費	・ 学校運営委員会委員報酬	999千円
		・ 市外研修旅費	16千円
		・ 広報活動費等諸経費	575千円

**事業開始背景**

平成16年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、学校運営に関して保護者や地域住民などが運営に参画するための機関として、教育委員会が指定する学校に学校運営協議会を置くことが可能となり、コミュニティ・スクールが法により制度化された。  
 本市においては、平成27年12月に市立小中学校全校への導入の方針を定め、これまでの学校支援地域本部、学校評議員、学校関係者評価委員などの取組を基盤として、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う「えべつ型コミュニティ・スクール」を平成29年4月から全小中学校に導入した。

**事業を取り巻く環境変化**

平成29年4月の法改正により、コミュニティ・スクールの導入が教育委員会の努力義務となっている。  
 道内では、平成29年4月1日の時点で164校、令和元年5月1日現在で702校（いずれも幼稚園等を含む）でコミュニティ・スクールが導入されている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

		<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	導入3年目となり、各学校とも1回目の任期が終わったところで学校・委員会などから意見を募った。その中には、地域住民が学校運営に参画する機会が従来より増えたこと、学校、地域、家庭の連携が深められたこと、地域が学校に協力的になったとの意見があり、少しずつ成果が上がっている。
	<b>どちらかといえば上がっている</b>		
	上がっていない		
		<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	地域住民の学校運営参画の機会が確保され、学校と地域のつながりがさらに深まることで成果向上が期待される。
	<b>成果向上余地 中</b>		
	成果向上余地 小		
		<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある	理由根拠	本事業は、各小中学校運営委員会を運営する上で、必要な委員報酬と事務経費の一部を予算措置しているものであり、必要最低限と判断する。
	<b>なし</b>		

事業名：医療的ケア児支援事業

【事業番号 6278】  
教育支援課 主査(教育支援)

政策	06 子育て・教育	戦略	2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	(2) 教育内容の充実					
開始年度	令和元年度	終了年度	—	区分1	新規	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

小中学校において医療的ケアの対象となる児童生徒

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
対象指標 1	小中学校において医療的ケアの対象となる児童生徒	人	0	0	0	0
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

学校に看護師を配置し、医療的ケアを必要とする児童生徒への支援を行う。また、医療的ケア運営協議会において実施に関する協議を行い、支援に当たっては安全かつ適正に医療的ケアを実施する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
活動指標 1	学校看護師数	人	0	0	3	3
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

医療的ケアを必要とする児童生徒が小中学校に就学できる実施体制の充実を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
成果指標 1	学校において医療的ケアを実施した人数	人	0	0	0	0
成果指標 2	学校における医療的ケア児の受入れ可能人数	人	0	0	2	2

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	0	0	407	265
正職員人件費(B)	千円	0	0	23,830	23,997
総事業費(A+B)	千円	0	0	24,237	24,262

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校看護師の配置</li> <li>医療的ケア運営協議会の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケア運営協議会委員への謝礼：70千円</li> <li>備品購入費：297千円</li> </ul>

事業開始背景	
<p>全国的に、医療的ケア児が増加する傾向である中、小中学校においても、医療的ケア児が在籍するようになってきている。国では、小中学校における医療的ケアの実施を支援し、医療的ケア児への対応を推進している。また、北海道では、「特別支援教育に関する基本方針」で、医療的ケアを行う看護師の配置に努めるとともに、児童生徒の心身の状況や保護者のニーズ等を把握し、医療的ケアの実施がより充実した体制の下で行われるように推進している。</p> <p>現在、江別市内の小中学校には医療的ケア児は在籍していないが、医療的ケア児の小中学校への通学について検討を行った結果、今後の行政需要における対応の一環として、学校看護師を学校に配置し、学校における安全管理に配慮した上で、医療的ケアを実施することとした。</p>	
事業を取り巻く環境変化	
<p>大きな環境の変化はみられない。</p>	

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	<b>どちらかといえば上がっている</b>	
	上がっていない	
看護師を配置し、医療的ケアの実施体制を整備した。		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
今後小学校に入学する予定の児童に、事業の対象となる可能性のある児童がいるため、受入れに伴う成果指標の向上が見込まれる。		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	ある	理由 根拠
	<b>なし</b>	
今後、実際に医療的ケア児を小中学校で受入れる際には、児童生徒に応じた環境整備が必要になり、工事費等によるコスト増が見込まれる。		

事業名：公民館管理運営事業

【事業番号 423】

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

公民館

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	3	3	3	3
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	89,466	90,501	91,082	93,685
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、地域に密着した社会教育の中心施設となる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	228,889	219,932	198,485	222,400
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	92,507	93,065	93,185	95,875
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,922	1,935
総事業費 (A+B)		千円	94,412	94,972	95,107	97,810

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理協定の締結</li> <li>施設及び物品の修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理料 91,082千円</li> </ul>	

<b>事業開始背景</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年 中央公民館開設</li> <li>・昭和59年 野幌公民館開設</li> <li>・平成9年 大麻公民館開設</li> </ul>
<b>事業を取り巻く環境変化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度を導入</li> <li>・施設の老朽化</li> <li>・市民の学習ニーズの多様化</li> </ul>

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>		
<b>成果動向及び原因分析</b>	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
・令和元年度は新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数は目標値を下回ったが、指定管理者制度の導入により、運営管理と事業企画、実施が総括的に行われ、現状を維持している。		
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>		
<b>成果向上余地</b>	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
・平成18年度から指定管理者制度を導入しており、今後も民間の能力やノウハウを活用しながら、適正かつ効率的な運営管理と市民ニーズに合った事業を実施していくことで、市民サービスの向上が期待できる。		
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>		
<b>コスト</b>	ある	理由 根拠
	なし	
・指定管理者制度の導入により、コスト意識は高まっている。施設の老朽化が進む中、コスト削減は難しいが、今後も指定管理者との協議調整の中で、管理運営の工夫・改善を含めた効率性を追求していく。		

事業名：図書館運営管理事業

【事業番号 424】  
情報図書館 主査(奉仕・事業)

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

情報図書館

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 施設数	施設	3	3	3	3
対象指標2 施設数(学校図書館地域開放事業)	施設	2	2	2	2

手段(事務事業の内容、手法)

情報図書館の運営管理に要する経費

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 年間開館日数(全館)	日	287	291	270	291
活動指標2 運営・維持管理経費	千円	71,702	71,371	72,512	83,258

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・利用者が図書館を安全・快適に利用できる。
- ・施設が適切に運営管理される。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 年間資料貸出利用者数	人	191,690	191,683	169,105	183,000
成果指標2 年間資料貸出冊数	冊	794,284	810,832	698,382	760,000

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	71,702	71,371	72,512	83,258
正職員人件費(B)	千円	30,472	30,508	30,364	32,899
総事業費(A+B)	千円	102,174	101,879	102,876	116,157

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
・情報図書館の管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員報酬等 42,906千円</li> <li>・燃料費・光熱水費 8,665千円</li> <li>・清掃等施設管理委託料 16,526千円</li> </ul>
元年度	

<b>事業開始背景</b>
平成元年8月に江別市情報図書館として運営をスタートし、現在では本館の他に大麻分館・江別分館・豊幌小学校図書館・江別太小学校図書館の合計5館を運営している。 本事業は、図書館開館にあわせて開始した事業である。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
人口減少等に伴い年間利用者数が減少している。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p><b>上がっていない</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、資料貸出利用者数・資料貸出冊数ともに減少した。</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p><b>成果向上余地 中</b></p> <p>成果向上余地 小</p> <p>今後とも利用者が安全・快適に利用できるよう適切に運営管理することで、成果の向上が可能である。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p><b>なし</b></p> <p>運営管理に必要最低限の支出を意識し経費削減に努めており、これ以上の経費削減は難しい。</p>

事業名：図書館資料整備事業

情報図書館 主査(奉仕・事業)

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民及び市内に通勤・通学している人

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

- ・図書館で作成した収集方針に沿って資料を収集する。
- ・月1回選書会議を行い購入する図書を選定する。
- ・相互貸借により資料を提供し補完する(道立図書館・全国公共図書館・道内外の大学図書館等)。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 資料購入冊数	冊	10,678	10,592	10,067	10,000
活動指標 2					

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

時代の趨勢や地域性を常に意識し、幅広いニーズに応えられるような資料の収集と提供を図ることにより、図書資料等に対する市民の関心が高まり、より多くの市民が図書資料等を利用するようになる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 市民一人当たりの貸出冊数	冊	6.7	6.8	5.8	6.4
成果指標 2 予約及びリクエスト件数	件	95,744	110,803	108,011	110,000

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	22,138	21,998	21,707	20,500
正職員人件費(B)	千円	3,428	3,432	3,459	3,483
総事業費(A+B)	千円	25,566	25,430	25,166	23,983

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 図書館の運営に必要な図書・雑誌・視聴覚資料等の整備に係る経費	雑誌・新聞・その他逐次刊行物等購入費 3,777千円 図書資料購入費 17,930千円

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年当時道内32市中すでに30市に図書館があり、市民からの建設要望があつて8月に開館した。</li> <li>・生涯学習推進のため。</li> </ul>
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口増加</li> <li>・利用者のニーズの変化、多様化</li> </ul>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>スマートフォンなどの通信機器やインターネット環境の普及とともに、図書館利用のニーズの変化や多様化が進んでおり、「市民一人当たりの貸出冊数」は減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館があつたことも要因の一つである。「予約及びリクエスト件数」は、昨年に比べて減少しているが、Web予約の件数は増加している。</p> </td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>スマートフォンなどの通信機器やインターネット環境の普及とともに、図書館利用のニーズの変化や多様化が進んでおり、「市民一人当たりの貸出冊数」は減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館があつたことも要因の一つである。「予約及びリクエスト件数」は、昨年に比べて減少しているが、Web予約の件数は増加している。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>スマートフォンなどの通信機器やインターネット環境の普及とともに、図書館利用のニーズの変化や多様化が進んでおり、「市民一人当たりの貸出冊数」は減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館があつたことも要因の一つである。「予約及びリクエスト件数」は、昨年に比べて減少しているが、Web予約の件数は増加している。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>利用者のニーズを踏まえ、有用な資料や情報の提供を図ることにより、成果向上の余地はある。</p> </td> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>利用者のニーズを踏まえ、有用な資料や情報の提供を図ることにより、成果向上の余地はある。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>利用者のニーズを踏まえ、有用な資料や情報の提供を図ることにより、成果向上の余地はある。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>利用者のニーズに対応し、広く資料を収集するための必要経費であるため削減は難しい。</p> </td> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <td>なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>利用者のニーズに対応し、広く資料を収集するための必要経費であるため削減は難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>利用者のニーズに対応し、広く資料を収集するための必要経費であるため削減は難しい。</p>				
なし						

事業名：旧町村農場管理運営事業

【事業番号 435】

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	平成 8年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

旧町村農場

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	7,486	7,486	7,552	8,351
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、江別市における酪農の歴史を伝える場となる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	来場者数	人	6,011	6,503	8,420	6,900
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	7,686	8,098	8,293	8,631
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	9,210	9,623	9,830	10,179

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理協定の締結</li> <li>施設の修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理料 7,552千円</li> </ul>	

<b>事業開始背景</b>
平成2年頃から旧町村農場近郊の市街化が進み、平成4年に農場の篠津地区への移転が決定。農場の移転に伴い、当市を代表する歴史的建造物として次世代へ継承することを目的に、旧農場の保存整備が始まった。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化</li> <li>・平成20年度から指定管理者制度を導入</li> </ul>

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

20歳以上の市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 20歳以上の市民	人	99,412	99,505	100,008	100,008
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

- ・初心者パソコン教室等の開催
- ・インターネット体験のためのコンピュータ学習室開放の実施(毎月第1・第3土、日曜日)

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 各種パソコン講習会開催数	回	30	27	29	35
活動指標 2 インターネット体験の実施日数	日	46	44	21	46

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

パソコン教室等の実施により、パソコンに慣れ親しみ、パソコンを情報収集や伝達などに利用できる市民が増える。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 各種パソコン教室受講者数	人	186	176	170	190
成果指標 2 コンピュータ学習室利用者数(延べ利用者数)	人	2,616	2,338	1,883	2,000

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	356	291	292	1,003
正職員人件費(B)	千円	4,190	4,195	4,228	4,258
総事業費(A+B)	千円	4,546	4,486	4,520	5,261

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 初心者PC教室 18回 EPOC講習会 10回 初めてのパソコン講習会 1回	パソコンボランティア謝礼 17千円 エポック講習会講師派遣委託料 50千円 コンテンツフィルタリング保守費用 137千円

<b>事業開始背景</b>
情報図書館のパソコン教室は平成元年開館時に、図書館のコンピュータ管理及びパソコン利用教育、パソコンを利用した市民への情報提供が重要であるということで設置された。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
現在の初心者パソコン教室（ワードからインターネットまで）は平成10年から開始しており、平成29年にはコンピュータ学習室のパソコンや運用ソフトウェアを更新した。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p><b>上がっていない</b></p>
<p>スマートフォンの普及やニーズの変化に伴って、パソコン教室の利用者数が減少している。また、コンピュータ学習室開放のボランティアを十分に確保できず、開放日数が減少したことにより学習室の利用者数も減少している。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p><b>成果向上余地 中</b></p> <p>成果向上余地 小</p>
<p>継続的に機器・ソフトウェアの更新を行い、最新の環境を提供することで向上の余地がある。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p><b>ある</b></p> <p>なし</p>
<p>ボランティア団体等の協力を得ることで所要時間削減の余地がある。</p>		

事業名：情報図書館展示室事業

【事業番号 445】  
情報図書館 主査(奉仕・事業)

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民		118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

展示室で、普段目に触れる機会の少ない図書資料などの展示会を企画する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	展示会開催数	回	4	4	3	4
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

展示会を開催することにより、図書館への関心が高まり、より多くの市民が図書館に足を運ぶようになる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	展示室入場者数	人	1,734	1,256	1,570	1,500
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	143	115	51	54
正職員人件費(B)		千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費(A+B)		千円	2,428	2,403	2,357	2,376

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	展示会の開催 「図書館30周年記念事業」 「えべつ土曜広場作品展」 「しかけ絵本と大型絵本展」	展示会講師謝礼 展示会用消耗品費	35千円 16千円

<b>事業開始背景</b>
展示会事業は、平成元年の開館当初から市民や図書館利用者の図書館活動への興味、関心を高めることを目的に開始された。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
ニーズが多様化しており、様々な世代に向けた展示会を開催することが求められている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> <p>令和元年度（平成31年度）は情報図書館開館30周年であり、記念事業として様々なイベントを行ったため、入場者の増加につながった。</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p> <p>企画や運営のあり方を工夫し、周知方法を見直すことで、市民の図書館への関心が高まり成果が向上する余地がある。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p>なし</p> <p>展示物はできるだけ図書館所蔵の資料等を使用しており、展示等の装飾の消耗品等についても必要最低限の経費で実施しているため、削減は難しい。</p>

事業名：蒼樹大学事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

65歳以上の市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	65歳以上の市民の数	人	34,645	35,415	36,162	36,162
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

高齢者の学習機会として、蒼樹大学を開催する。  
5～3月に毎月1、2回学習会開催

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	講座開催数	回	62	54	60	61
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

高齢者一人ひとりが生きがいを見出し、地域社会で生かすことのできる知識や技術を獲得する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	学生数	人	134	145	161	162
成果指標 2	出席率	%	80	82	83	82

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	638	536	567	501
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,922	1,935
総事業費 (A+B)		千円	2,543	2,443	2,489	2,436

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・午前は現代的課題や歴史等を全体で学ぶ教養講座、 午後は選択制の専攻講座（コーラス、太極拳、園芸、 ふるさと学、絵手紙、体操）を実施。	蒼樹大学開催に係る費用 567千円	

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和47年5月、高齢者に教育の機会を提供し、各種教育活動を通じて、身体的能力及び精神的機能を維持増進させ、生きがいを得ることによって老齢期の充実した人生を送ることができるようにすることを目的に開設。</li> </ul>
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進む現代では、生きがい提供の場としてだけでなく、高齢者が積極的に社会参加しまちづくりの一翼を担う存在となることが理想である。</li> </ul>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への学習機会が提供され、様々な形の仲間作りやコミュニケーションが図られている。</li> <li>・地域への参加を目的としている班活動は、より積極的な活動になってきており、在学生のまちづくりの意識の向上につながっている。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への学習機会が提供され、様々な形の仲間作りやコミュニケーションが図られている。</li> <li>・地域への参加を目的としている班活動は、より積極的な活動になってきており、在学生のまちづくりの意識の向上につながっている。</li> </ul>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への学習機会が提供され、様々な形の仲間作りやコミュニケーションが図られている。</li> <li>・地域への参加を目的としている班活動は、より積極的な活動になってきており、在学生のまちづくりの意識の向上につながっている。</li> </ul>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流活動を自ら企画・実施する場である班活動の実践は、地域社会へ学習の成果を還元するひとつの形となっている。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流活動を自ら企画・実施する場である班活動の実践は、地域社会へ学習の成果を還元するひとつの形となっている。</li> </ul>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流活動を自ら企画・実施する場である班活動の実践は、地域社会へ学習の成果を還元するひとつの形となっている。</li> </ul>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要最低限の経費の中で、地元の講師に依頼するなど工夫をしている。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要最低限の経費の中で、地元の講師に依頼するなど工夫をしている。</li> </ul>	なし	
ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要最低限の経費の中で、地元の講師に依頼するなど工夫をしている。</li> </ul>				
なし						

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

学校、社会教育関係団体等および市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標2					

手段(事務事業の内容、手法)

- ・プロジェクターなどの機器は、学校や社会教育関係団体等からの申請により貸出しする。
- ・ビデオソフトなどの教材は、個人へも貸出しする。
- ・視聴覚教育に必要な機器と教材の充実を図るとともに、図書館ウェブサイトなどにより周知を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 ライブラリー機器の数	点	19	20	20	20
活動指標2 ライブラリー教材の数	点	2,064	2,067	2,092	2,092

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・学校や社会教育関係団体等が視聴覚教材を学習の補助教材として活用することにより、学校の教育活動の充実と市民の社会教育活動の振興が図られる。
- ・より多くの市民が、自ら関心のある事柄について学習するようになる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 利用者数	人	3,532	3,250	2,530	2,700
成果指標2 貸出件数	回	3,406	3,151	2,448	2,600

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	670	575	427	397
正職員人件費(B)	千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費(A+B)	千円	2,955	2,863	2,733	2,719

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育関係団体等への視聴覚機器の貸出</li> <li>・個人への教材の貸出</li> <li>・教材用DVDの購入</li> <li>・ビデオ上映会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出用教材購入費用 362千円</li> <li>著作権(上映権)使用料 65千円</li> </ul>

<b>事業開始背景</b>
学校教育及び社会教育活動の振興を図るため、開館当初から視聴覚教育に必要な機器及び教材を提供している。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
映像資料など教材の収集方針を、2001年から幼稚園、保育園などのリクエスト以外は、著作権上許可された教育的な映像のみとした。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>利用者数、貸し出し件数は昨年度に比べて減少しているが、貸し出しの多い機器を複数保有することで利用者へ希望どおり提供できている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>利用者数、貸し出し件数は昨年度に比べて減少しているが、貸し出しの多い機器を複数保有することで利用者へ希望どおり提供できている。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>利用者数、貸し出し件数は昨年度に比べて減少しているが、貸し出しの多い機器を複数保有することで利用者へ希望どおり提供できている。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>時代に即した教材を取り揃え、最新機器を導入することにより利用が図られる余地がある。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>時代に即した教材を取り揃え、最新機器を導入することにより利用が図られる余地がある。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>時代に即した教材を取り揃え、最新機器を導入することにより利用が図られる余地がある。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>必要な機材、教材の購入や修繕に係る最低限の経費で実施しているため、削減は難しい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>必要な機材、教材の購入や修繕に係る最低限の経費で実施しているため、削減は難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>必要な機材、教材の購入や修繕に係る最低限の経費で実施しているため、削減は難しい。</p>				
なし						

事業名：読書普及活動事業

【事業番号 454】  
情報図書館 主査(奉仕・事業)

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

読書普及に向けたおはなし会、講演会などを開催する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 図書館主催おはなし会など開催回数	回	327	319	298	327
活動指標 2					

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・おはなし会を通して、幼児・児童の読書に対する興味が喚起される。
- ・おはなし会や人形劇などを行うボランティア団体の活動が活性化される。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 読書普及事業の参加人数	人	3,558	3,420	3,403	3,700
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	385	370	315	369
正職員人件費(B)	千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費(A+B)	千円	2,670	2,658	2,621	2,691

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 本館及び分館でのおはなし会などの開催	おはなし会講師謝礼 266千円

<b>事業開始背景</b>
開館当初より、絵本の読み聞かせや講演会などを実施。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成28年度より乳幼児向けおはなし会を開始。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている どちらかといえば上がっている <b>上がっていない</b>	<b>理由根拠</b> 保育園等に子どもを預ける保護者が増えたことや、他の読み聞かせに参加する機会が増えたことがおはなし会への参加が減っている要因と考えられる。また、新型コロナウイルス感染拡大防止によるイベントの中止や臨時休館があったことも要因の一つである。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 <b>成果向上余地 中</b> 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> 活動内容の工夫や、より周知を図ることで、成果が向上する余地がある。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある <b>なし</b>	<b>理由根拠</b> おはなし会等の開催にかかる講師謝礼や消耗品にかかる必要最低限の経費であり、削減は難しい。

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

社会教育の振興・発展を目的とし、児童・生徒の健全育成と幅広い世代間交流を目指す市内の団体及び地域団体等。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	地域交流活動補助対象事業数	団体	18	16	16	18
対象指標 2						

**手段（事務事業の内容、手法）**

社会教育事業や音楽文化事業に対し、「江別市教育振興事業補助金規則」に基づき事業費の一部を支援する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	860	734	659	800
活動指標 2						

**意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

各団体等が独立して活動を行うことにより、社会教育の充実が促進される。また団体が地域と協働で活動することにより、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	6,780	5,346	7,197	8,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	860	734	659	800
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	1,622	1,497	1,428	1,574

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	社会教育の振興及び地域活動団体の育成・促進を目的とする市内の団体などが、学校や地域と連携して自主的に企画・運営する青少年健全育成事業及び青少年音楽振興事業等に対し「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき事業費の一部を支援する。	青少年ふれあい交流促進事業補助金 659千円

**事業開始背景**

平成29年度から「青少年ふれあい交流促進事業」と「発表の場拡大事業」を統合したもの。  
 「発表の場拡大事業」は、芸術文化活動団体が日頃の活動の成果を発表する際の会場使用料を対象に補助金を交付してきたものであるが、活動の発表のみではなく、地域の児童・生徒の健全育成と幅広い世代間の交流を図った上での活動として促進するため、「青少年ふれあい交流促進事業」に統合した。

**事業を取り巻く環境変化**

- ・平成18年度から社会教育事業と文化振興事業の統合を図った。
- ・平成27年度から青少年ふれあい交流事業と子どもを見守る地域ふれあい事業を統合。
- ・平成29年度から青少年ふれあい交流促進事業と発表の場拡大事業を統合。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	<b>どちらかといえば上がっている</b>	
	上がっていない	
申請団体の固定化という課題はあるが、新たな団体からの申請もあり、平成29年度に二つの補助金を統合したことによって受入間口のひろがりにつながっている。		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	<b>成果向上余地 中</b>	
	成果向上余地 小	
平成29年度に二つの事業を統合したことで受入間口がひろがり、多種多様な団体の支援につながっている。		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	<b>なし</b>	
課内の同様事業の統合により交付業務は軽減されたが、補助金要望額の合計は予算金額を超えている現状であり、コスト削減は難しい。		

事業名：えべつ市民カレッジ(四大学等連携生涯学習講座)事業 生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	01 生涯学習の充実	具体的施策	
開始年度	平成12年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

高校生以上の市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 高校生以上の市民	人	104,414	104,568	104,992	104,992
対象指標2					

手段(事務事業の内容、手法)

- ・市内4大学との共催で行う連携講座「ふるさと江別塾」の開催。
- ・市内4大学や社会教育関係団体が主催する市民向け講座と連携し、市主催の講座を含めて「えべつ市民カレッジ」として位置付け総合的に学ぶ機会を提供する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 連携団体数	団体	6	6	6	6
活動指標2					

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

知的資源を有する市内4大学等と連携し、様々な市民の学習要求に応えることにより、学習・文化活動・スポーツを気軽に行える環境をつくとともに、まちづくりの身近な地域課題に対する気づきの機会も提供されている。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 えべつ市民カレッジ講座数	講座	155	191	208	200
成果指標2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	1,208	194	194	183
正職員人件費(B)	千円	2,666	2,669	2,690	2,709
総事業費(A+B)	千円	3,874	2,863	2,884	2,892

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内4大学と連携を図りながら、各大学を会場とした「ふるさと江別塾」を開催する。</li> <li>・ふるさと江別塾に加え、各大学等で開催している市民公開講座、市主催講座、社会教育関係団体主催講座と連携し、それらの講座をえべつ市民カレッジとして位置づけ、総合的に市民へ提供する。</li> <li>・受講履歴を記録できるカレッジ手帳により、受講単位に応じ称号を授与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと江別塾開催に係る経費 143千円</li> <li>・えべつ市民カレッジ受講シール、称号授与に係る経費 51千円</li> </ul>

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は各大学が独自の日程や内容により、各種講座を公開していたが、開催日時の重複や、受講を希望する市民から調整の要望があった。</li> <li>・平成12年度から、市内の4大学と市の共催により「ふるさと江別塾」を開催した。</li> <li>・平成26年度からは、市が市内4大学で開催している市民公開講座と連携し、それらの講座を「えべつ市民カレッジ」と位置付け、総合的に市民へ学ぶ機会の提供を開始した。</li> </ul>
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学において、教育の振興や地域社会の発展を目的とした産学官連携・地域貢献の意識が高まっている。</li> </ul>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：コミュニティセンター管理運営事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

コミュニティセンター

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	16,537	16,593	16,670	17,080
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、市民相互のふれあいのなかで地域経済活動の促進を図り、地域づくりの拠点となる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	176,663	94,709	138,060	150,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	16,537	16,593	16,670	17,080
正職員人件費 (B)		千円	1,143	1,144	1,153	1,161
総事業費 (A+B)		千円	17,680	17,737	17,823	18,241

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	・ 指定管理協定の締結	・ 指定管理料 16,670千円

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成元年 コミュニティセンター開設</li> </ul>
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>18年度から指定管理者制度を導入</li> <li>施設の老朽化</li> </ul>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により、効率的な運営管理が実現され、利用者ニーズに柔軟な対応が可能となっている。</li> <li>平成30年度は、地震の影響もあって利用者数が大幅に減少したため、令和元年度の利用者数は増加した。新型コロナウイルスによる休館期間があったにも関わらず、利用者数については安定しており、現状を維持している。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により、効率的な運営管理が実現され、利用者ニーズに柔軟な対応が可能となっている。</li> <li>平成30年度は、地震の影響もあって利用者数が大幅に減少したため、令和元年度の利用者数は増加した。新型コロナウイルスによる休館期間があったにも関わらず、利用者数については安定しており、現状を維持している。</li> </ul>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により、効率的な運営管理が実現され、利用者ニーズに柔軟な対応が可能となっている。</li> <li>平成30年度は、地震の影響もあって利用者数が大幅に減少したため、令和元年度の利用者数は増加した。新型コロナウイルスによる休館期間があったにも関わらず、利用者数については安定しており、現状を維持している。</li> </ul>	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により一定の成果が見られる。今後も、斬新な事業企画により、利用者ニーズに合った市民サービスの向上が図られる余地はある。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により一定の成果が見られる。今後も、斬新な事業企画により、利用者ニーズに合った市民サービスの向上が図られる余地はある。</li> </ul>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度の導入により一定の成果が見られる。今後も、斬新な事業企画により、利用者ニーズに合った市民サービスの向上が図られる余地はある。</li> </ul>	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度からの指定管理者制度の導入によりコスト意識は高まっている。施設の老朽化が進む中、コスト削減は難しいが、今後も、指定管理者との協議調整の中で、管理運営の改善・工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度からの指定管理者制度の導入によりコスト意識は高まっている。施設の老朽化が進む中、コスト削減は難しいが、今後も、指定管理者との協議調整の中で、管理運営の改善・工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul>	なし	
ある	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度からの指定管理者制度の導入によりコスト意識は高まっている。施設の老朽化が進む中、コスト削減は難しいが、今後も、指定管理者との協議調整の中で、管理運営の改善・工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul>	
なし							

事業名：社会教育団体支援事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化		戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市女性団体協議会、江別市PTA連合会、江別市聚楽学園、江別市生涯学習推進協議会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	補助団体数	団体	4	4	4	4
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、「江別市女性団体協議会」「江別市PTA連合会」「江別市聚楽学園」「江別市生涯学習推進協議会」へ補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	2,538	2,638	2,538	2,538
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

それぞれの団体が独立して活動を行うことで、社会教育活動が活性化する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	2,635	2,986	3,185	2,700
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,538	2,638	2,538	2,538
正職員人件費 (B)		千円	3,429	3,432	4,612	4,645
総事業費 (A+B)		千円	5,967	6,070	7,150	7,183

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・「江別市女性団体協議会」「江別市PTA連合会」「江別市生涯学習推進協議会」「江別市聚楽学園」への補助金交付	・江別市女性団体協議会への補助金 400千円	・江別市PTA連合会への補助金 368千円
		・江別市生涯学習推進協議会への補助金 1,000千円	・江別市聚楽学園への補助金 770千円

<b>事業開始背景</b>
社会教育認定団体として、社会教育活動の活性化という同じ目的に向かった活動を行っている団体への支援を行う。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
それぞれの団体が担っている役割は大きく、各団体の特徴ある活動は江別の施策に大きく貢献している。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：家庭教育支援事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2		補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

子育て中の保護者、一般市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小中学校の家庭数	件	7,356	7,169	7,093	7,093
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・市P連と協力して情報モラル講演会の実施
- ・家庭教育支援事業（えべ育カフェ）の開催
- ・家庭教育ナビゲーターの養成

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	事業開催数	回	4	1	4	4
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

子育て中の保護者の悩みや不安の軽減に繋がる支援を行う

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	269	174	217	220
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	353	39	219	162
正職員人件費 (B)		千円	1,524	763	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	1,877	802	1,756	1,710

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル講演会の開催</li> <li>・えべ育カフェの開催</li> </ul>	家庭教育支援事業開催に係る経費 219千円	

<b>事業開始背景</b>
平成28年度までは、未就学児を持つ保護者を対象に学習の機会（青空子どもの広場）を提供してきたが、子育て支援室で行っている事業の充実により、当該事業への参加者が減少傾向にあった。これまで就学児童の保護者に対する学習機会の提供がされておらず、ここを発掘してニーズに応えることにより、子育て環境の充実をはかることとし、平成29年度は、親子向けの体験事業と情報モラル講演会を開催し、家庭の教育力向上に取り組んだ。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成30年度は保護者向けの学習機会は情報モラル講演会のみで開催となる。 平成31年からヤング子育て相談事業で行ってきた「えべ育カフェ」を家庭教育支援事業の一環とする。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	01 生涯学習の充実			具体的施策				
開始年度	令和元年度	終了年度	—	区分1	新規	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民及び市内に通勤・通学している人

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	0	0	119,510	119,510
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

市民交流施設で、図書館資料の貸出・返却業務などを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	業務日数	日	0	0	68	307
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

利用者の利便性を高め、図書館利用数を増加させる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	年間資料貸出利用者数	人	0	0	928	3,370
成果指標 2	年間資料貸出冊数	冊	0	0	2,018	6,440

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	0	0	2,822	2,010
正職員人件費(B)		千円	0	0	384	774
総事業費(A+B)		千円	0	0	3,206	2,784

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	市民交流施設における予約図書等の貸出・返却業務の実施に要する経費。	図書館業務委託費	815千円
		図書館システム改修費	1,870千円
		備品購入費	137千円

<b>事業開始背景</b>
令和元年12月に市民交流施設が開設され、当該施設内において、情報図書館業務の一部を実施することとなったため。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
社会環境の多様化により、市民生活における各種活動時間も多岐に渡ってきており、図書館を利用する時間も多様性を帯びてきている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>年度途中での事業開始であり、利用動向に不確実性があったが、施設利用の利便性が浸透してきている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>年度途中での事業開始であり、利用動向に不確実性があったが、施設利用の利便性が浸透してきている。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>年度途中での事業開始であり、利用動向に不確実性があったが、施設利用の利便性が浸透してきている。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>市民交流施設において、図書館資料の貸出及び返却等ができることをさらに周知していくことで成果の向上が期待できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>市民交流施設において、図書館資料の貸出及び返却等ができることをさらに周知していくことで成果の向上が期待できる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>市民交流施設において、図書館資料の貸出及び返却等ができることをさらに周知していくことで成果の向上が期待できる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>委託事業にかかる人件費を基に事業費を積算しており、削減は困難である。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>委託事業にかかる人件費を基に事業費を積算しており、削減は困難である。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>委託事業にかかる人件費を基に事業費を積算しており、削減は困難である。</p>				
なし						

事業名： ガラス工芸館管理運営経費

【事業番号 476】

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策				
開始年度	平成 6年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・ ガラス工芸館
- ・ ガラス工芸家

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	敷地面積	㎡	1,024.39	1,024.39	1,024.39	1,024.39
対象指標 2	延床面積	㎡	242.72	242.72	242.72	242.72

手段（事務事業の内容、手法）

- ・ 施設の管理運営
- ・ ガラス工芸家の創作活動公開への対応

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	開館日数	日	59	39	62	61
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

創作活動及び作品鑑賞の場として公開することにより、創作工芸の分野における文化の振興に資する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	来館者数	人	1,334	736	1,365	1,480
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,614	2,046	2,026	2,030
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	3,376	2,809	2,795	2,804

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	ガラス工芸館の管理運営	管理運営費	2,026千円

**事業開始背景**

江別市ガラス工芸館は、野幌代々木町にあった「旧石田邸」を、町並みに個性とのおいを与える資源として保存し、建物の周辺とあわせて市民の憩いの場として活用するため、平成4年に市が土地と建物を買い上げ、改修整備を加えて平成6年4月にオープンした。

**事業を取り巻く環境変化**

当該施設は、ガラス工芸家が創作活動を行う場でもあることから、その活動ぶりを開館以来公開してきた。平成15年度からは、適正な管理運営と良好な創作環境の維持を図るため、市民等への公開期間及び日数の見直しを行った。16年3月に旧工芸家が退所後、16年12月から新工芸家が入所し活動を開始した。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p>現在の工芸家が入所してから10年以上経過し、少ない開館日数ながら年間、平均1,400人前後の来館者がある。（震災の影響で9月以降閉館した平成30年度は除く）                  大幅な来館者の増加はないが、館の特徴でもあるプロの芸術家の創作活動の見学や来館者の製作体験は、市民が質の高い芸術文化に親しむ機会となっている。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p>来館者の受け入れを増やすためには、工芸家の創作活動に支障を期さない範囲で受け入れの支援や対外的な宣伝が必要である。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
<p>事業内容の見直しを行うなど経費の節減を図っているが、燃料費等は工芸家の創作活動に必要な経費であることから、コストの削減は難しい。</p>		

事業名：セラミックアートセンター企画展開催事業 セラミックアートセンター

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成 6年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

- ・「れんがとやきものまち・江別」を市民間に共有のイメージとして意識してもらうこと、また芸術・文化に触れて市民生活を豊かにしていくために、地元江別をはじめ、道内外の優れた陶芸作品や芸術作品等の企画展を開催し、市民に芸術・文化の鑑賞の場を提供する。
- ・市内関係機関や道内外の美術館・博物館などにポスターやチラシ等を頒布し、周知する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 企画展開催数	回	2	4	4	3
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・多くの市民（来館者）に観覧してもらうことで、「れんがとやきものまち・江別」のイメージをより広く共有し、市民の文化意識の高揚を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 企画展入場者数	人	1,282	5,604	4,778	3,100
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	470	3,365	9,871	6,709
正職員人件費 (B)	千円	11,427	11,441	9,609	6,193
総事業費 (A+B)	千円	11,897	14,806	19,480	12,902

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	・開館25周年記念展ほか計4回の企画展を開催	・開館25周年記念展の開催経費 8,840千円

<b>事業開始背景</b>
平成6年度に開館したセラミックアートセンターにおいて、道内外の優れた陶芸作品を市民が鑑賞できる機会を設け、やきもの文化の振興と普及を図ることとした。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成7年度の第1回企画展開催以来、陶芸を主題に据えてきたが、来場者アンケート等のニーズを踏まえるとともに、市内大学との連携事業も取り入れ平成17年度以降は陶芸を主題としつつ、広く工芸作品を紹介する企画内容としている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p>令和元年度は「手島圭三郎」展を継続開催したことで、幅広い年齢層の来館を得ることができた。一方で、開館25周年展は企画内容、展示作品への評価は高かったものの、観覧者数は見込みを下回った。このことは展示会名称の工夫を要することを示唆したものと受け止めている。令和2年度企画展の開催準備は関係機関との協議も順調に進捗している。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p>広報活動や展示会名称の工夫により、成果指標は向上するものと思われる。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
<p>各種助成（補助）制度の活用を図ることで、コスト削減の余地は考えられる。</p>		

事業名：セラミックアートセンター管理運営経費 セラミックアートセンター

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成 6年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

セラミックアートセンター

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

- ・セラミックアートセンターの管理運営に要する経費。
- ・小森忍、道内作家作品及びれんが資料の収集、展示。
- ・陶芸を中心とした展覧会の開催、各種陶芸教室・講座等の適正な管理運営。工房、窯等の貸し出し。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 開館日数	日	300	299	283	301
活動指標 2 運営・維持管理経費	千円	39,315	39,243	39,740	39,781

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・快適かつ安全に利用してもらう。
- ・多くの市民に利用してもらうことで、「れんがとやきものまち・江別」のイメージの共有を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 利用者数	人	24,647	24,635	24,490	24,000
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	39,315	39,243	39,740	39,781
正職員人件費 (B)	千円	6,856	6,864	4,997	7,741
総事業費 (A+B)	千円	46,171	46,107	44,737	47,522

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 ・セラミックアートセンターの維持管理 ・小森忍、道内作家作品及びれんが資料の収集・展示	・非常勤職員報酬 3,598千円 ・暖房用重油代等燃料費 3,362千円 ・電気代等光熱水費 4,686千円 ・維持管理関係委託料 24,544千円

<b>事業開始背景</b>
○平成6年度開館のセラミックアートセンターを適切に管理運営していくため。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
○施設のあり方検討の中で、市民ギャラリーの機能を付加して利活用を図ることとなり、平成23年度に企画展示室の改装を実施。幅広い芸術文化の展示発表が行える地域文化創造の新たな拠点とした。 ○開館25年を経て、施設設備と備品類の経年劣化が著しくなっている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防のために、3月中を臨時休館としたものの、目標値を上回った。施設内外の環境特性を活かした事業展開が成果をもたらしたものと考えられる。</p>
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p>	<p>理由 根拠</p> <p>施設の多目的活用を図ることと、多様な社会教育事業の展開等の工夫を講じる。</p>
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	<p>ある</p> <p>なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>毎年度経費削減に努めており、施設維持管理のために必要最小限の経費しか要していない。これ以上の経費削減は、施設維持管理に多大な支障をきたす。</p>

政策	07 生涯学習・文化		戦略						
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造		具体的施策						
開始年度	平成14年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

子どもの文化活動育成事業「土曜広場」推進委員会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	推進委員数	人	14	12	12	12
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

子どもの文化活動育成事業「土曜広場」推進委員会に補助金を交付する。  
◎江別市教育振興事業補助金交付規則

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	900	900	900	900
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

推進委員会が、地域資源となる地域に在住する伝統的文化活動等の指導者の方々の協力を得て、土曜広場を提供することで、子どもたちの日本文化に対する理解を深め、文化芸術活動を拡充する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	開催学校数	校	17	17	16	17
成果指標 2	参加者数	人	780	871	769	820

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	900	900	900	900
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,922	1,935
総事業費 (A+B)		千円	2,805	2,807	2,822	2,835

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが土曜日をより良く過ごせるよう、地域の専門的な指導者及び運営に係るボランティアの協力によって、市内各小学校の施設を活用し、普段学校で学ぶことの少ない日本の伝統的文化活動を体験・学習する機会を提供する。</li> <li>市内小学校16か所（野幌若葉小は野幌森林公園にクマが出没したため中止）、月2回土曜日午前中（10回程度/1校）</li> <li>活動種目 囲碁・茶道・手芸・百人一首など25種類程度</li> </ul>	・補助金	900千円

**事業開始背景**

平成14年度江別市地域ぐるみ教育活動支援事業の一環として開始する。

**事業を取り巻く環境変化**

平成15年度は、文部科学省の委託事業である地域教育力活性化支援事業のモデル事業に位置づけられ実施している。平成15年3月の中央教育審議会答申では、教育の基本理念の一つに「日本の伝統・文化の尊重、郷土や国を愛する心と国際社会の一員としての意識の涵養」が掲げられている。  
平成16年度は伝統文化活性化協会からの補助。  
平成17年度以降は市からの補助。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数が前年よりも減少したが、野幌森林公園にクマが出没したため、野幌若葉小で開催できなかったことが主な要因である。</li> <li>・対象となる小中学生の数がほぼ横ばいで推移する中、実施校が1校少ない状況で参加者数が2年前から微減にとどまっている。</li> </ul>
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	事業で取り扱う活動種目を充実することで受入れ幅が広がるなど、成果の向上につながる可能性は高い。また、指導講師や運営委員の協力者が増えることで、活動内容の充実も期待できる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、教材費のかかるものは参加者の受益者負担を原則としており、指導・運営に当たる関係者については、ボランティアとしての対応を基本としている。補助金の約8割は、交通費を賄う程度の報償費と保険加入費用として支出されており、経費の削減は難しい。</li> </ul>
	なし		

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策					
開始年度	平成 9年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民文化ホール

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	50,388	50,559	51,403	52,557
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、市民の芸術文化活動の発展を図り、心豊かなまちづくりに寄与する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	53,146	63,473	54,573	47,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	50,485	50,559	51,832	337,547
正職員人件費 (B)		千円	1,143	1,144	1,153	2,322
総事業費 (A+B)		千円	51,628	51,703	52,985	339,869

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理協定の締結</li> <li>施設及び物品の修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理料 51,403千円</li> </ul>	

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成4年に市民から要望あり。大麻公民館改築と併せて複合施設としての計画を策定</li> <li>・平成7年着工</li> <li>・平成9年10月オープン</li> </ul>
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・江別市民の主体的な芸術文化活動の重要な拠点として多様に活用されている。</li> <li>・施設設備の老朽化</li> </ul>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度は新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数は目標値を下回ったが、指定管理者制度の導入のより、運営管理と事業企画、実施が統括的に行われ、良い意味で現状を維持している。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度は新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数は目標値を下回ったが、指定管理者制度の導入のより、運営管理と事業企画、実施が統括的に行われ、良い意味で現状を維持している。</li> </ul>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度は新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数は目標値を下回ったが、指定管理者制度の導入のより、運営管理と事業企画、実施が統括的に行われ、良い意味で現状を維持している。</li> </ul>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度を導入しており、今後も民間の能力やノウハウを活用しながら、適正かつ効率的な運営管理と市民ニーズに合った事業を実施していくことで、市民サービスの向上が期待できる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度を導入しており、今後も民間の能力やノウハウを活用しながら、適正かつ効率的な運営管理と市民ニーズに合った事業を実施していくことで、市民サービスの向上が期待できる。</li> </ul>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度を導入しており、今後も民間の能力やノウハウを活用しながら、適正かつ効率的な運営管理と市民ニーズに合った事業を実施していくことで、市民サービスの向上が期待できる。</li> </ul>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度の導入により、コスト意識は高まっている。今後とも指定管理者との協議の中で、管理運営の改善、工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度の導入により、コスト意識は高まっている。今後とも指定管理者との協議の中で、管理運営の改善、工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul>	なし	
ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度の導入により、コスト意識は高まっている。今後とも指定管理者との協議の中で、管理運営の改善、工夫を含めた効率性を追求していく。</li> </ul>				
なし						

政策	07 生涯学習・文化		戦略				
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

NPO法人江別市文化協会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	江別市文化協会加盟会員数	人	1,973	1,896	1,859	1,900
対象指標 2	加盟団体数	団体	112	111	109	111

手段(事務事業の内容、手法)

NPO法人江別市文化協会に補助金を交付する。  
◎江別市教育振興事業補助金交付規則

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	350	350	350	350
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

会員による自主的・主体的な芸術文化活動が活発に行われ、広く市民にその活動が浸透し、新たな活動領域の出現や団体等の形成、会員の増加を促進する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	主催・支援事業数	件	22	19	21	22
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	350	350	350	350
正職員人件費(B)		千円	762	763	769	774
総事業費(A+B)		千円	1,112	1,113	1,119	1,124

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	対象事業 ①会員交流事業、②会員拡大・研修・活動促進事業、③顕彰事業、④文化活動発信事業、⑤えべつ文化未来事業、⑥文化振興調査研究事業	・補助金	350千円

<b>事業開始背景</b>
昭和41年に市内18の文化団体によって創立。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
文化協会は昭和41年に創立され、長年にわたり江別市民の文化活動の普及振興に貢献している。市内の文化関係施設の充実が進んだ現在、市民の創造的な芸術文化活動拡充への多様な取組が求められており、協会の役割は今後も増大することが予想され、会員の資質の向上や組織・指導体制充実のための取組への支援が必要である。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年にNPO法人となったことで、各種文化団体の活動支援や育成への体制が充実している。</li> <li>・主催・支援事業はほぼ横ばいであるが、石狩管内文化団体協議会の事務局として管内の文化団体相互の連絡調整をはかるなど、文化活動の発展に寄与している。</li> </ul>
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援体制を充実させることで、新たな加盟団体・会員の増加、後援事業の増加が見込まれる。</li> </ul>
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の自助努力による組織強化や自主財源の確保等の方向性を探ることは可能であるが、団体の現況等から急激なコストの削減に踏み切るとは難しい。</li> </ul>

事業名：文化振興奨励事業

【事業番号 484】

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策				
開始年度	平成13年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

対象の個人・団体に対し、全国大会等出場奨励金を支給する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	奨励金支給個人数	人	4	6	9	4
活動指標 2	奨励金支給団体数	団体	3	0	0	2

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

活動を行う個人や団体が奨励金の支給を受け、さらなる意欲の向上が図られる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	入賞個人数	人	0	4	7	4
成果指標 2	入賞団体数	団体	1	0	0	2

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	330	60	90	240
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	711	441	474	627

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人：10,000円以内、本市に在住していること（就学以前の者を除く）。</li> <li>・団体：100,000円以内（10人未満の団体は、出場者数に10,000円を乗じた額以内の額）、本市に主たる活動の場を有し、かつ、その構成員の8割以上が本市在住の市民で組織されていること（就学以前の者を除く）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会等出場奨励金 90千円</li> </ul>	

事業開始背景
本事業は、各種文化活動において優秀な成績をおさめ、全国大会に出場する個人や団体に対する奨励制度を設けるため、「江別市スポーツ大会出場奨励金支給要綱」にない平成13年度に制定された、
事業を取り巻く環境変化
「江別市芸術文化大会・コンクール出場奨励金支給要綱」に基づき運用されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">・意欲の向上が図られ、各種大会での上位入賞につながっている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	・意欲の向上が図られ、各種大会での上位入賞につながっている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				・意欲の向上が図られ、各種大会での上位入賞につながっている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">・制度の周知を拡大することで、活動を行う個人や団体の意欲が向上し、入賞件数の増加につながる可能性がある。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	・制度の周知を拡大することで、活動を行う個人や団体の意欲が向上し、入賞件数の増加につながる可能性がある。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				・制度の周知を拡大することで、活動を行う個人や団体の意欲が向上し、入賞件数の増加につながる可能性がある。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2">・個人や団体の活動に対する奨励金の支給事業であり、対象を減らすことなくコストを削減することは難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	・個人や団体の活動に対する奨励金の支給事業であり、対象を減らすことなくコストを削減することは難しい。	なし	
ある	理由 根拠	▶				・個人や団体の活動に対する奨励金の支給事業であり、対象を減らすことなくコストを削減することは難しい。	
なし							

事業名：江別音楽協会補助金

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策					
開始年度	平成 9年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別音楽協会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	構成人員数	人	350	350	350	350
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別音楽協会に補助金を交付する。  
◎江別市教育振興事業補助金交付規則

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	900	900	900	900
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市内の学校や音楽団体の水準向上と人材育成を図り、市民の音楽文化に対する関心を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	1,407	1,982	1,653	1,040
成果指標 2	事業への来場者数	人	1,716	4,006	2,391	3,200

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	900	900	900	900
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	1,281	1,281	1,284	1,287

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・「夏の演奏会」「楽器別講習会」「プリズムコンサート」「冬の演奏会」の開催	・補助金	900千円

事業開始背景
江別音楽協会は、平成3年に市内11校の吹奏楽部及び顧問により発足した江別吹奏楽研究協議会を前身とし、組織や事業内容を発展させ、吹奏楽部門に限らず合唱・弦楽器・邦楽などの音楽分野を取り入れた総合的な音楽集団として、江別の音楽文化の振興を図ることを目的に、平成9年に改称設立された。
事業を取り巻く環境変化
近年は特に大きな環境の変化はない。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容の見直しにより参加者・来場者ともに減少しているが、令和元年度は楽曲研究と指導法の研修（「冬の演奏会」）を取り入れるなど、新たな事業を行っており、成果が期待できる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容の見直しにより参加者・来場者ともに減少しているが、令和元年度は楽曲研究と指導法の研修（「冬の演奏会」）を取り入れるなど、新たな事業を行っており、成果が期待できる。</li> </ul>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容の見直しにより参加者・来場者ともに減少しているが、令和元年度は楽曲研究と指導法の研修（「冬の演奏会」）を取り入れるなど、新たな事業を行っており、成果が期待できる。</li> </ul>	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校や音楽団体の水準向上と人材育成を図る事業に自主的に取り組む民間組織はまだ少なく、事業が定着することで、参加者・来場者数ともに増加することが期待できる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校や音楽団体の水準向上と人材育成を図る事業に自主的に取り組む民間組織はまだ少なく、事業が定着することで、参加者・来場者数ともに増加することが期待できる。</li> </ul>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の学校や音楽団体の水準向上と人材育成を図る事業に自主的に取り組む民間組織はまだ少なく、事業が定着することで、参加者・来場者数ともに増加することが期待できる。</li> </ul>	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、以下のとおり経費削減を行っており、これ以上の削減は団体の活動減退につながることから難しい。</li> <li>平成18年度に、市民芸術祭事業の一環として行っていた「楽器クリニック」補助金を江別音楽協会補助金と統合。</li> <li>※平成17年度両事業補助金 合計：990千円→平成18年度統合後 計900千円</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、以下のとおり経費削減を行っており、これ以上の削減は団体の活動減退につながることから難しい。</li> <li>平成18年度に、市民芸術祭事業の一環として行っていた「楽器クリニック」補助金を江別音楽協会補助金と統合。</li> <li>※平成17年度両事業補助金 合計：990千円→平成18年度統合後 計900千円</li> </ul>	なし	
ある	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、以下のとおり経費削減を行っており、これ以上の削減は団体の活動減退につながることから難しい。</li> <li>平成18年度に、市民芸術祭事業の一環として行っていた「楽器クリニック」補助金を江別音楽協会補助金と統合。</li> <li>※平成17年度両事業補助金 合計：990千円→平成18年度統合後 計900千円</li> </ul>	
なし							

事業名：市民芸術祭開催支援事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策					
開始年度	平成 5年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

芸術文化の振興を目的とする市民組織

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	構成関係団体数	団体	2	2	2	2
対象指標 2	構成委員数	人	41	16	15	15

手段（事務事業の内容、手法）

各実行委員会に補助金を交付する。  
◎江別市芸術文化奨励補助金交付要綱

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	1,000	900	1,600	500
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

主体的かつ創造性豊かな芸術文化活動を活発に行い、江別市独自の創造型芸術文化活動を創出する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	市民芸術祭の参加者数（参加者＋鑑賞者）	人	1,466	703	1,610	910
成果指標 2	開催事業数	回	3	4	3	3

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,000	900	1,600	500
正職員人件費 (B)		千円	3,428	3,432	3,459	2,709
総事業費 (A+B)		千円	4,428	4,332	5,059	3,209

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	各実行委員会が行う次の3部門の市民創造型芸術文化事業とする。 ・舞台部門（市民ミュージカル公演～3年に1回 R元本公演） ・音楽部門（まちかどコンサート年2回） ・展示部門（市民美術展受賞作品展～5年に1回：次回作品展はR4予定）	・市民ミュージカル公演	1,100千円 ・まちかどコンサート 500千円

<b>事業開始背景</b>
平成5年度に江別市の芸術文化の振興と質の向上を目指して市民と行政の連携協調による組織化を行った。主な機能としては、市民文化祭の開催と芸術鑑賞型事業の市民組織による開催を中心としたものであった。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成13年度に市民文化祭を文化協会事業に組み替えし、市民芸術祭事業を市民参加による創造型の事業に転換を図り現在に至っている。事業が固定化してきており、市民芸術祭実行委員会があまり機能しない状態が続いてきたことから同委員会を解消し、独自の実行委員会ごとに事業を実施している。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>			
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？			
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数は各年度における事業内容及び事業数に大きく左右される。R元は3年に1回の市民ミュージカル本公演の年にあたる。3年前の本公演と比較して、出演者が22名（H28）から32名（R元）、来場者が675名（H28）から965名（R元）に増えており、市民の活動意欲は高まっていると言える。</li> </ul>
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？			
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加による創造型の取組としては唯一のものであり、成果向上の余地はある。</li> </ul>
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？			
コスト	ある	理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の補助金の活用や自主財源の確保等の方向性を探ることは可能であるが、急激なコストの削減に踏み切るとは難しい。</li> </ul>
	なし		

政策	07 生涯学習・文化			戦略				
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策				
開始年度	平成13年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

北海道林木育種場旧庁舎

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	敷地面積	㎡	5,053.53	5,053.53	5,053.53	5,053.53
対象指標 2	延床面積	㎡	1,388.09	1,388.09	1,388.09	1,388.09

**手段（事務事業の内容、手法）**

(公社) シルバー人材センターに管理を委託し、施設利用者の把握、清掃などを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	開館日数	日	115	113	111	116
活動指標 2						

**意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

適正に維持管理される。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	841	628	585	720
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,744	2,192	1,821	1,752
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	1,161
総事業費 (A+B)		千円	2,125	2,573	2,205	2,913

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	北海道林木育種場旧庁舎の管理運営	維持管理経費	1,821千円

**事業開始背景**

平成8年にその役目を終えた林木育種場旧庁舎を、平成9年から教育委員会で借り受け利用。改修整備（平成12年～）を進めながら、原始林に訪れる市民の憩いの場として、平成13年10月から土・日と国民の祝日に休憩室・談話室の供用開始（12月29日～1月3日を除く）。翌平成14年に歴史的建造物（文化庁登録文化財）として正式に江別市で取得。必要最小限の経費で計画的に整備し活用する。

**事業を取り巻く環境変化**

当庁舎は昭和2年に建築されたもので、大正、昭和初期の建築物、特に庁舎建築の中で現存するものが少なく歴史的建造物としての価値があることから、現状の老朽化を押さえつつ、外観については建設当時のイメージに沿った復元が必要。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

・保存目的に取得し改修しているため、消防法の規定により一般開放に規制があることや、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月を休館としたことにより、来館者数は増加しておらず、効果的な活用が図られている状態とはなっていない。しかし、昭和初期に作られたこの建物に関心を持ち、市内外から大人数で見学に来る団体もあり、今後も郷土の文化遺産を市民共有の財産として身近なものにするため、情報発信をしていく必要がある。

・野幌森林公園を象徴する建物として、広く市民が活用できるような施設に改修するには、莫大な経費を要することから、当面は現状維持的な利用（土・日・祝日の休憩所の開放、文化財整理室として利用など）にとどまらざるを得ない。

・来館者が少ないことから、管理業務と清掃業務を同一人が兼ねて行うなど業務内容の見直しを行い委託料の節減に繋げている。

事業名：野幌太々神楽伝承会補助金

【事業番号 493】  
郷土資料館 文化財係

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策							
開始年度	平成 7年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	奨励的補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市野幌太々神楽伝承会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	構成員数	人	23	23	23	23
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

市民団体として、市民への公演会や保存団体への協力を行う太々神楽の保存伝承活動を支援し、永く無形民俗文化財の保存に努める。  
・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	300	300	300	300
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

指定文化財「野幌太々神楽」を永く保護保存するとともに、保存伝承活動を全市的活動に広げる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	発表会及び研修会等活動日数	日	32	28	32	28
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	300	300	300	300
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	681	681	684	687

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	江別市野幌太々神楽伝承会の公演等の保存伝承活動事業に対し、補助金を交付し支援する。	江別市野幌太々神楽伝承会への補助	300千円

**事業開始背景**

野幌太々神楽を市の伝統芸能として位置づけ、永く後世に伝えることを目的として平成7年に発足し、全市的な保存伝承活動に取り組んでいる団体に対する補助金の交付事業である。

**事業を取り巻く環境変化**

会の活動は年を追うごとに活発化し、平成13年からは自主発表会の開催や依頼公演の増加など、独自の活動を行っている。併せて指定文化財の保持団体である野幌太々神楽保存会との交流も順調に進められている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
成果動向及び原因分析	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>上がっている</p> <hr style="border: 2px solid black;"/> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 10px;"> <p>発表会の観客は毎年200人以上を数え、市民の認知度が定着してきている。保存会との交流やイベント時のサポートも順調に行われており、無形民俗文化財の保存活動として成果を上げている。</p> </div> </div>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>成果向上余地 大</p> <hr style="border: 2px solid black;"/> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 10px;"> <p>会の活動が認知され、地域でのイベント事業での公演も定着してきている。しかし、新規会員の入会が少なく、また会の活動目的の一つである学校等への伝承活動が低調であり、これらが解消されれば更なる成果が見込まれる。</p> </div> </div>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
コスト	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>ある</p> <hr style="border: 2px solid black;"/> <p>なし</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding: 0 10px;">理由 根拠</div> <div style="flex-grow: 1; padding: 10px;"> <p>活動に不可欠な装束や採物などの備品整備・更新が必要であり、また活動にかかる財源確保が難しいため、補助金削減は難しい。</p> </div> </div>

事業名：野幌太々神楽保存会補助金

【事業番号 494】  
郷土資料館 文化財係

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策					
開始年度	昭和59年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	奨励的補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市指定文化財保存団体「野幌太々神楽保存会」

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	構成員数	人	170	160	155	160
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

市指定文化財保持団体の保存伝承活動を支援し、永く無形民俗文化財の保存に努める。  
・「文化財保護条例」、「文化財保護条例施行規則」に基づき、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	150	150	150	150
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

指定文化財を適切に保護、保存する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	発表会及び研修会等活動日数	日	36	32	30	24
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	150	150	150	150
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	531	531	534	537

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市指定文化財「野幌太々神楽」の保持団体である「野幌太々神楽保存会」の保存伝承活動に対し、補助金を交付し支援する。	野幌太々神楽保存会への補助	150千円

**事業開始背景**

昭和48年に指定した無形民俗文化財の保存継承団体に対する補助金の交付事業である。

**事業を取り巻く環境変化**

野幌太々神楽は東西野幌地区に伝わる伝統芸能であるが、近年の農業経営形態や生活環境の変化により、この伝統芸能を受け継ぐ人々が減少し、次代への継承が危ぶまれている中、その保存伝承のために無形民俗文化財として指定した市の果たす役割も大きくなっている。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	市指定無形民俗文化財として唯一保存されている野幌太々神楽は、地域に根付いた貴重な市の財産であり、保存会による保存伝承活動が着実に継続されている。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	資金的な助成を継続することにより、適切な保存伝承活動が行われ、貴重な文化財が後世に継承されると同時に、郷土の歴史文化として広く市民に周知される。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	指定文化財を保護・保存することは行政の責務であり、補助金削減は難しい。
	なし		

事業名：陶芸文化普及振興事業

【事業番号 617】  
セラミックアートセンター

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策						
開始年度	平成 6年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・陶芸を中心とした企画展示事業の開催。
- ・陶芸体験、初級・中級等の教室や講座の開催。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	展示事業数	回	5	4	1	1
活動指標 2	教室・講座等事業数	事業	30	32	25	32

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・多くの市民に陶芸体験の機会や鑑賞の機会を提供し、陶芸文化、ひいては芸術文化全般に対する市民意識の高揚を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	展示事業入場者数	人	5,828	5,915	3,995	4,000
成果指標 2	教室・講座等事業参加者数	人	6,272	5,879	5,291	5,300

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	7,318	6,763	6,389	6,769
正職員人件費 (B)		千円	6,094	6,102	3,844	5,419
総事業費 (A+B)		千円	13,412	12,865	10,233	12,188

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「工房利用者作品展」の実施</li> <li>・陶芸教室、陶芸体験、各種講座等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸指導員報酬 5,299千円</li> <li>・展示会開催経費 24千円</li> </ul>	

<b>事業開始背景</b>
センターの運営指針である「やきもの文化の普及振興」と陶芸人口の底辺拡大を図るため、展示事業と両軸をなす陶芸教室や体験会を提供するために開始した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
陶芸教室等においては、開館以来、初中級の成形（技法）教室や講座を開講してきたが、参加者・利用者からのニーズを踏まえ、食とのコラボや陶芸以外の工芸分野の教室・講座を開講することとしている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> <p>ロビーイベントの開催や施設内外の特性を活かした事業やニーズを捉えた陶芸教室・講座の開講によって、成果をあげている。</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	理由根拠	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p> <p>事業参加者や利用者の学習要求に合わせた講座等を企画立案するほか、連続受講者の学習成果に応じたカリキュラムを構成することで成果向上の余地はある。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p>なし</p> <p>展示事業や陶芸教室等の内容・規模は、年度ごとに異なる要素があり、その都度必要な予算を計上していることから、一様な削減は馴染まない。</p>

事業名：市民文化祭開催支援事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化		戦略				
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

NPO法人江別市文化協会

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	文化協会構成団体数	団体	112	111	109	111
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

NPO法人江別市文化協会に補助金を交付する。  
◎江別市教育振興事業補助金交付規則

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	2,400	2,400	2,400	2,400
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市民文化祭を開催することにより、発表や鑑賞等を契機に芸術文化活動への興味関心が高まり、市民主体のより積極的な活動が行われる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加者数（出演者＋来場者）	人	20,010	14,771	15,270	15,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,400	2,400	2,400	2,400
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,922	1,935
総事業費 (A+B)		千円	4,305	4,307	4,322	4,335

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市民芸術文化活動の活性化を図るため、開催事業経費から事業収入を控除した額を補助する。 1 部門別事業 ①舞台部門（市民合唱祭ほか計10事業） ②展示部門（市民美術展ほか計8事業） ③文芸部門（短歌大会ほか計4事業） ④生活文化部門（将棋大会ほか計2事業） 2 総合芸術フェスティバル	・補助金	2,400千円

<b>事業開始背景</b>
昭和27年第1回江別町民文化祭開催。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成13年度から文化協会の事業に位置づけして実施する現形態とし、本来あるべき市民の主体的な取組へと転換を図った。平成25年度には第60回目を迎えた。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文芸部門の文化講演会の参加者が増えたこと、生活文化部門の茶道の会場が増えたことなどにより、全体として前年よりも参加者数が増加した。</li> </ul>
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟団体が参加しやすい方法にしたり、市民が求めるテーマを取り入れたことにより、参加者数を増やす余地はある。</li> </ul>
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入場料や参加者負担金の増額によって受益者負担を増額することは、成果の低下（参加者数の減少）を招くことになるので難しく、実施主体の文化協会には経費節減をお願いし、補助金額を減額してきた。</li> <li>※補助金額H13:3,000千円、H15:2,600千円、H16:2,500千円、H18:2,400千円</li> </ul>

事業名：芸術鑑賞招へい事業

生涯学習課 生涯学習係

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造			具体的施策					
開始年度	平成13年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

芸術鑑賞機会の充実を目的とする市民団体

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	補助金交付市民団体数	団体	3	3	3	3
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

芸術文化鑑賞機会の充実を目的とする市内の芸術文化活動団体及びこれらの団体で構成する実行委員会等を対象に補助金を交付する。  
◎江別市芸術文化奨励補助金交付要綱

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	1,850	1,850	1,633	1,850
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・市民の主体的かつ創造性豊かな芸術文化活動が活発に行われる。
- ・質の高い芸術鑑賞機会が増える。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	鑑賞者数	人	2,223	2,368	1,117	2,300
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,850	1,850	1,633	1,850
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	2,612	2,613	2,402	2,624

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・プロの団体、個人を招へいし、質の高い舞台芸術公演を実施する。	・音楽関係公演	983千円
		・演芸関係公演	650千円

<b>事業開始背景</b>
市民が主体となり、創造性豊かな芸術文化の振興が求められる時代背景にあつて、平成13年4月に江別市芸術文化奨励補助金交付要綱の改正を行い、新たに市民の手による芸術文化事業の充実を図るため、市民団体等が行う質の高い鑑賞招へい事業に対する支援を行うこととした。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成27年度から江別市民音楽振興会に対する支援を開始。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：埋蔵文化財発掘調査事業

【事業番号 627】  
郷土資料館 文化財係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

埋蔵文化財包蔵地（遺跡）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	埋蔵文化財包蔵地	カ所	142	142	142	142
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

1. 埋蔵文化財包蔵地のデータ管理及び詳細分布調査等の実施と、資料の整備・公開により、市民ほか関係者に周知する。
2. 埋蔵文化財包蔵地の現状保存が困難な各種土木工事等に伴い発掘調査等の措置により、記録保存を行う。
3. 各種土木工事等に伴う発掘調査費の積算や、国・道費との調整を図り、事業を実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	所在確認調査・試掘調査実施件数	件	0	6	4	3
活動指標 2	発掘調査実施件数	件	4	1	1	1

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

埋蔵文化財を適切に保護、保存する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	埋蔵文化財保護件数	件	4	7	5	4
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	9,513	9,714	10,465	17,422
正職員人件費 (B)		千円	9,903	13,729	13,837	13,934
総事業費 (A+B)		千円	19,416	23,443	24,302	31,356

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）		
元年度	埋蔵文化財包蔵地の現状保存が困難な各種土木工事等に伴い、記録保存のための発掘調査を実施する。 埋蔵文化財包蔵地に関する資料の管理・公開や確認調査等を実施する。	発掘調査に伴う費用	作業員賃金	5,754千円
			委託料	2,433千円
		確認調査等に伴う費用	委託料	282千円

<b>事業開始背景</b>
文化財保護法に基づく埋蔵文化財の保護・保存のため。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成10年度に埋蔵文化財包蔵地の「周知資料」（既に存在が知られている包蔵地のデータを広く一般に知らせるための資料）の整備を市町村において行うよう通知が出されており、詳細分布調査を積極的に行うことにより、周知資料を適正に整備していくことが求められている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	<b>理由根拠</b> 文化財保護法に基づき、土木工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための調査や所在・試掘調査、詳細分布調査を実施することにより、市内における埋蔵文化財包蔵地の保護・保存に成果を上げている。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> 記録保存のための発掘調査事業については、各種土木工事等の計画・協議を受けて実施される。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある なし	<b>理由根拠</b> 埋蔵文化財包蔵地の保護・保存に必要最低限な経費を予算計上しており、予算削減は難しい。また、土木工事に伴う発掘調査の費用は原則事業者負担（受益者負担）を求めており、負担が適当でない場合は、国・道の補助制度を活用している。

事業名：郷土資料館企画展開催事業

【事業番号 884】  
郷土資料館 文化財係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成22年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

- 郷土資料館収蔵資料を中心とした企画展を開催する。
- 未公開資料を積極的に活用し、市民に多くの郷土資料を紹介する。
- 展示資料の追調査等を実施することによって、資料データの充実を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 企画展開催数	回	2	2	2	2
活動指標 2 展示資料点数	点	116	242	155	100

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

郷土資料館収蔵資料の公開を通じて、市民に郷土の歴史・文化に関心を持ってもらい、さらに、ふるさと意識の醸成を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 企画展入場者数	人	4,130	4,628	3,525	3,000
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	47	53	59	79
正職員人件費 (B)	千円	1,524	3,051	1,537	1,548
総事業費 (A+B)	千円	1,571	3,104	1,596	1,627

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 郷土資料館ロビーにて、企画展を開催し、市民の寄贈資料や発掘調査で得た考古資料等を公開することで、江別の歴史や文化に対する関心を深めてもらう。	展示に伴う経費 59千円

<b>事業開始背景</b>
郷土資料（寄贈資料）等を活用して市民に公開し、文化財の周知を図る。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
事業を取り巻く大きな環境変化は見られない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p style="background-color: black; color: white; margin: 0;">上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> </div> <div style="margin: 0 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="font-size: 2em;">▶</div> </div> <p>夏季と冬季の2回、収蔵品を郷土資料館ロビーにて無料で展示公開し、市民に郷土の歴史や文化に触れる機会と新たな情報を提供する当事業に対し、一定数以上の入場者数を得ることができている。</p>	
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p style="background-color: black; color: white; margin: 0;">成果向上余地 小</p> </div> <div style="margin: 0 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="font-size: 2em;">▶</div> </div> <p>郷土資料館には、大規模な企画展を行う十分なスペースや什器等がなく、現状以上の成果を上げることは難しい。</p>	
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>ある</p> <p style="background-color: black; color: white; margin: 0;">なし</p> </div> <div style="margin: 0 10px; text-align: center;">理由 根拠</div> <div style="font-size: 2em;">▶</div> </div> <p>必要最低限の予算で運営していることから、予算削減は難しい。</p>	

事業名：ふるさと江別塾～「江別を学ぶ」開催事業 郷土資料館 業務係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成 3年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

市民が郷土史を学ぶための各種講座を開催するとともに、見学受入れや資料貸出し等を通じて小中学校の学習を支援する。

- ・子ども学芸員カレッジ(小学生)
- ・再発見・江別探訪(一般)
- ・縄文土器を作ろう!(小学生)
- ・ふるさと歴史講座(一般)
- ・総合的な学習支援事業(小中学生)
- ・歴史を学ぼう(小中学生・一般)

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 事業開催回数	回	48	47	46	45
活動指標 2					

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

市民に郷土の歴史に対する理解を深めてもらう。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 事業参加者数	人	2,678	2,299	2,313	2,400
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	287	234	135	202
正職員人件費(B)	千円	4,190	3,814	4,228	4,258
総事業費(A+B)	千円	4,477	4,048	4,363	4,460

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども学芸員カレッジ:小学生対象</li> <li>・縄文土器を作ろう!:小学生対象</li> <li>・再発見・江別探訪:一般対象(史跡等の見学)</li> <li>・ふるさと歴史講座:一般対象(江別の歴史・文化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども学芸員カレッジ開催経費 50千円</li> <li>・縄文土器を作ろう!開催経費 27千円</li> <li>・再発見・江別探訪開催経費 58千円</li> </ul>

<b>事業開始背景</b>
大人から子供まで様々な事業を通じてふるさと江別を学んでもらう。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
事業を取り巻く大きな環境変化は見られない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td>上がっている</td> <td rowspan="3">理由 根拠</td> <td rowspan="3">市内外小中学校への利用呼び掛けや、広報誌・ホームページ等を活用した各種事業のPR等の取り組みを通じて、ここ数年は一定数以上の事業参加者数を維持できている。</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	市内外小中学校への利用呼び掛けや、広報誌・ホームページ等を活用した各種事業のPR等の取り組みを通じて、ここ数年は一定数以上の事業参加者数を維持できている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	市内外小中学校への利用呼び掛けや、広報誌・ホームページ等を活用した各種事業のPR等の取り組みを通じて、ここ数年は一定数以上の事業参加者数を維持できている。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 大</td> <td rowspan="3">理由 根拠</td> <td rowspan="3">市民ニーズに合った新規事業メニューの考案、解説ボランティアガイド等の育成、学芸員の知見活用、関係団体や庁内関連部署との連携協力、SNS等を活用した情報発信などの取り組みを通じて、より多くの市民に「江別の歴史」に対する理解と関心を深めてもらうことによって、更なる事業参加者の増加が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	市民ニーズに合った新規事業メニューの考案、解説ボランティアガイド等の育成、学芸員の知見活用、関係団体や庁内関連部署との連携協力、SNS等を活用した情報発信などの取り組みを通じて、より多くの市民に「江別の歴史」に対する理解と関心を深めてもらうことによって、更なる事業参加者の増加が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	市民ニーズに合った新規事業メニューの考案、解説ボランティアガイド等の育成、学芸員の知見活用、関係団体や庁内関連部署との連携協力、SNS等を活用した情報発信などの取り組みを通じて、より多くの市民に「江別の歴史」に対する理解と関心を深めてもらうことによって、更なる事業参加者の増加が期待できる。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>						
コスト	<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">本事業は、必要最低限の予算で運営しているため、事業費の削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td>なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	本事業は、必要最低限の予算で運営しているため、事業費の削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	本事業は、必要最低限の予算で運営しているため、事業費の削減は難しい。				
なし						

事業名：屯田資料館管理運営経費

郷土資料館 業務係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成 7年度	終了年度	—
	区分1	廃止	区分2
	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

屯田資料館  
野幌屯田兵屋

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 施設数	施設	2	2	2	0
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

屯田資料館及び野幌屯田兵屋の維持管理並びに運営に要する経費。  
 ・道指定有形文化財「野幌屯田兵第二中隊本部」（屯田資料館）の管理と公開。  
 ・湯川公園内「野幌屯田兵屋」の管理と公開。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 屯田資料館開館日数	日	65	60	69	0
活動指標 2 屯田兵屋開館日数	日	9	7	9	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設が適正に管理運営されることで、江別に礎を築いた屯田兵に対する市民の理解が深まる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 屯田資料館利用者数	人	595	452	834	0
成果指標 2 屯田兵屋利用者数	人	189	109	268	0

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	2,061	2,062	2,010	0
正職員人件費 (B)	千円	1,524	1,144	1,537	0
総事業費 (A+B)	千円	3,585	3,206	3,547	0

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
屯田資料館・野幌屯田兵屋の維持管理及び一般公開	・施設管理及び解説担当職員報酬 590千円 ・保守管理委託経費 1,308千円
元年度	

<b>事業開始背景</b>
郷土の歴史的建造物の保存と活用
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
事業を取り巻く大きな環境変化は見られない。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>開館日（土日祝）における本館来館者への共通入館券購入促進、郷土史に精通した解説員の配置、市内小中学校への総合学習での利用呼び掛けなどの取り組みにより、当該施設に対する市民の関心を高めることができ、利用者の大幅増につながった。</p>
	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p>	<p>理由 根拠</p> <p>解説ボランティアガイド等の育成、学芸員の知見活用、関係団体や庁内関連部署との連携協力、SNS等を活用した情報発信などの取り組みを通じて、より多くの市民に野幌屯田兵村の開拓の歴史に対する理解と関心を深めてもらうことで、更なる利用者の増加が期待できる。</p>
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
	<p>ある</p> <p>なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>現在、屯田資料館は4月29日～11月3日の期間内の土、日、祝日、野幌屯田兵屋は5～9月の第4土曜日と開館日を限定して公開しており、管理運営も必要最低限の予算で賄っている状況であることから、これ以上の事業費削減は難しい。</p>

事業名：郷土資料館管理運営経費

郷土資料館 業務係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	具体的施策	
開始年度	平成 3年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

郷土資料館

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 施設数	施設	1	1	1	3
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

郷土資料館の維持管理に要する経費。  
 ・常設展・企画展など展示事業の適正な管理運営  
 ・講座等教育普及事業の適正な管理運営  
 ・郷土資料の収集・保存  
 ・郷土資料の調査研究

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 開館日数	日	300	300	283	301
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設が適正に管理運営されることで、江別の歴史に対する市民の理解が深まる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 利用者数	人	7,698	8,217	7,022	7,500
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	13,109	14,167	13,231	15,656
正職員人件費 (B)	千円	4,952	4,576	4,612	7,354
総事業費 (A+B)	千円	18,061	18,743	17,843	23,010

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
郷土資料館の施設維持管理及び資料展示等の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理及び解説担当職員報酬 5,429千円</li> <li>燃料費（重油等） 673千円</li> <li>光熱水費（電気、ガス、水道） 1,325千円</li> <li>保守管理委託経費 4,574千円</li> </ul>
元年度	

<b>事業開始背景</b>
郷土の歴史資料等を市民に公開し活用してもらおう。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
事業を取り巻く大きな環境変化は見られない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	<b>理由根拠</b> 市内小中学校への総合学習での利用呼び掛けや、広報誌・ホームページ等によるPRの取り組みなどにより、当館の展示資料や江別の郷土史に対する市民の関心が高まり、ここ数年は一定数以上の利用者数を維持できている。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> 解説ボランティアガイド等の育成、学芸員の知見活用、関係団体や庁内関連部署との連携協力、SNS等を活用した情報発信などの取り組みを通じて、より多くの市民に江別の歴史に対する理解と関心を深めてもらうことで、更なる利用者の増加が期待できる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある なし	<b>理由根拠</b> 施設の維持管理に必要な最低限の予算で運営しており、事業費削減は難しい。

事業名：学校プール開放事業

【事業番号 499】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

開放校及びその周辺地区の児童・生徒及びその保護者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	開放校区の児童・生徒（中学生）数	人	8,726	8,582	8,654	8,076
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

学校プールを夏季休業期間中、開放・管理する。プールの水質管理のほか、開放校毎に開放時間中2名のプール監視員を配置し、原則、日曜と水曜を休業日としている。午前10時から正午までと午後1時から午後3時30分まで開放している。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	開放校数	校	15	15	15	15
活動指標 2	開放日数	日	14	14	14	14

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校プールを夏季休業期間中開放し、水泳に親しむ機会を提供することで、小中学生の体力・健康増進を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	8,375	10,306	9,499	10,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	3,382	3,542	3,553	3,761
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	5,667	5,830	5,859	6,083

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	夏季休業期間中に小学校15校のプールを、開放校及びその周辺地区の児童・生徒及びその保護者に開放する。	監視員等報酬	3,115千円

**事業開始背景**

夏休み期間に児童生徒の体力増進を図る場を提供する。

**事業を取り巻く環境変化**

平成24年度に、プール監視業務を委託する場合は受託者が警備業の認定を受けていることが必要と示された（警察庁通知）ことから、平成25年度からは委託を取りやめ、直営により運営している。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	天候によって利用者数は増減するが、毎年一定の利用者数を維持している。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	当事業の周知は、広報や市ホームページで市民に知らせるほか、開放校の学校だよりなどで児童に知らせており、天候が安定していれば利用者の増が期待できる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由 根拠	プールは、安全管理や水質管理など、減らしたり効率化できない部分があることから削減は難しく、利用者の安全性の確保のため、逆にコストをかける必要がある。
	なし		

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象 (誰、何に対して事業を行うのか)**

開放校及びその周辺地区の児童、生徒及びその保護者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	実施校区の児童・生徒数	人	5,635	5,635	5,751	5,746
対象指標 2						

**手段 (事務事業の内容、手法)**

学校週5日制の対応として、毎週土曜日午前8時30分から正午まで市内10小学校の体育館を開放し、利用者の自由なスポーツ活動(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・ドッジボール・その他軽スポーツ等)に供するほか、グラウンドを自由開放する。出入口の錠の開閉や安全管理・器具使用上等の指導・説明等のため1校に2名の指導員を配置している。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	開放校数	校	10	10	10	10
活動指標 2	開放日数	日	169	206	178	190

**意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)**

- ・学校週5日制により生じた休日の子供たちが家に閉じこもることなく、有意義に過ごし健やかに成長する。
- ・スポーツ少年団等のスポーツ組織へ未加入の子供たちに対し、スポーツに親しむ機会を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	2,859	2,290	2,220	2,500
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,062	1,195	1,066	1,174
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	2,586	2,720	2,603	2,722

事業内容 (主なもの)		費用内訳 (主なもの)	
元年度	土曜日に小学校10校の体育館及びグラウンド(夏季)を、開放校及びその周辺の児童、生徒及びその保護者に開放する。	指導員謝礼	965千円

事業開始背景
学校週5日制の導入により休業日となる土曜日に、学校施設を開放し児童が様々な運動を体験することにより、自主性や協調性を培い、より豊かな人間形成を図る。
事業を取り巻く環境変化
特段の環境変化は生じていない。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">減少傾向にあるが、過去の実績をみると一定の利用者数があり、学校週5日制に対応した土曜日の過ごし方として、児童生徒の健全育成の面で成果がある。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	減少傾向にあるが、過去の実績をみると一定の利用者数があり、学校週5日制に対応した土曜日の過ごし方として、児童生徒の健全育成の面で成果がある。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				減少傾向にあるが、過去の実績をみると一定の利用者数があり、学校週5日制に対応した土曜日の過ごし方として、児童生徒の健全育成の面で成果がある。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3">自由開放で、活動種目を特定していないが、子供たちに人気のある種目の用具を増やすなどの努力によって、利用人数が増えることが期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	自由開放で、活動種目を特定していないが、子供たちに人気のある種目の用具を増やすなどの努力によって、利用人数が増えることが期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				自由開放で、活動種目を特定していないが、子供たちに人気のある種目の用具を増やすなどの努力によって、利用人数が増えることが期待できる。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2">必要最小限の費用で運営しており、コストの削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	必要最小限の費用で運営しており、コストの削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	▶				必要最小限の費用で運営しており、コストの削減は難しい。	
なし							

事業名：屋外体育施設管理運営事業

【事業番号 503】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

はやぶさ運動広場、屋外スケートリンク

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	2	2	2	2
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・はやぶさ運動広場の利用受付、維持管理や軽易な補修整備を行う。
- ・屋外スケートリンクのリンク造成、運営管理を行う。
- ・両施設とも業務委託で行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	はやぶさ運動広場開放日数	日	184	194	195	190
活動指標 2	屋外スケートリンク開場日数	日	27	27	22	25

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設の維持管理・運営を適切に行い、市民がスポーツに親しむ場を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	はやぶさ運動広場利用者数	人	20,070	16,459	18,793	18,000
成果指標 2	屋外スケートリンク利用者数	人	12,496	12,111	9,635	13,000

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	6,130	6,131	6,188	6,320
正職員人件費 (B)		千円	762	763	1,537	774
総事業費 (A+B)		千円	6,892	6,894	7,725	7,094

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	施設の管理運営、スケートリンク造成を業務委託により実施する。	委託料	6,188千円

<b>事業開始背景</b>
市民へのスポーツ活動の場の提供
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	天候によって利用者数は増減するが、毎年一定の利用者数を維持している。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	市民の身近にある屋外体育施設の適切な整備により、利用者の増が期待できる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	経費の削減に努めてきており、削減は難しい。

事業名：スポーツ少年団補助金

【事業番号 504】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市スポーツ少年団

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	登録団数	団	43	43	44	44
対象指標 2	登録団員数	人	1,075	984	938	938

手段（事務事業の内容、手法）

- ・スポーツ少年団が行う単位少年団育成強化事業、交流事業、リーダー養成事業等に対して補助を行う。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市体育協会を通じて江別市スポーツ少年団に対し定額を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	2,007	1,992	1,901	1,931
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・スポーツを行う青少年を増やす。
- ・青少年スポーツを指導する有資格者を増やす。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	小中学生に対するスポーツ少年団員の割合	%	12.3	11.5	10.8	10.9
成果指標 2	認定指導員の数	人	149	149	162	140

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,007	1,992	1,901	1,931
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	2,769	2,755	2,670	2,705

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	江別市スポーツ少年団に対し補助金を支出。	補助金	1,901千円

事業開始背景
社会教育関係団体である江別市スポーツ少年団について、市内スポーツ及び社会教育の振興・育成を目的として、同団体が実施する事業に対し、その費用の一部を補助する。
事業を取り巻く環境変化
特段の環境変化は生じていない。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">登録団員数は減少したものの、登録団数は増加しており、青少年がスポーツに触れる機会を確保している。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	登録団員数は減少したものの、登録団数は増加しており、青少年がスポーツに触れる機会を確保している。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				登録団員数は減少したものの、登録団数は増加しており、青少年がスポーツに触れる機会を確保している。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">指導者の養成と活動場所の確保という条件が整えば、少年団員の増が期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	指導者の養成と活動場所の確保という条件が整えば、少年団員の増が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				指導者の養成と活動場所の確保という条件が整えば、少年団員の増が期待できる。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">少年団による各種事業は適切に運営されており、青少年のスポーツ振興の観点から削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	少年団による各種事業は適切に運営されており、青少年のスポーツ振興の観点から削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	▶				少年団による各種事業は適切に運営されており、青少年のスポーツ振興の観点から削減は難しい。	
なし							

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

あけぼのパークゴルフ場

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

**手段（事務事業の内容、手法）**

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	10,397	10,881	10,919	11,083
活動指標 2						

**意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

施設の維持管理を適切に行い、パークゴルフに親しむ場を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	30,247	29,648	33,140	34,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	10,397	10,881	10,919	11,083
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	11,159	11,644	11,688	11,857

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	施設の管理運営を指定管理者に委託する。	指定管理料	10,919千円

<b>事業開始背景</b>
平成18年度から指定管理者制度を導入した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている <b>どちらかといえば上がっている</b> 上がっていない	<b>理由根拠</b> 個人利用、団体利用により、一定の利用者数を維持している。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 <b>成果向上余地 中</b> 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> コースや管理棟などの施設を適切に管理し、利用者が快適に利用できるような環境整備に努めることによって、利用者の増が期待できる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある <b>なし</b>	<b>理由根拠</b> 平成18年度から指定管理者制度を導入している。

事業名：江別市体育協会補助金

【事業番号 507】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市体育協会（現：江別市スポーツ協会）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	加盟団体数	団体	25	25	25	25
対象指標 2	加盟人数	人	6,731	7,231	7,357	6,500

手段（事務事業の内容、手法）

- ・体育協会が行う単位協会活動費補助事業、ジュニアスポーツ育成事業、全道大会開催助成事業等に対し補助を行う。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市体育協会に対し定額を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	1,705	1,449	1,713	1,378
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・競技力の向上
- ・競技スポーツをする人の増加
- ・競技スポーツを指導する人の増加と資質向上

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	主催・共催事業実施数	事業	5	5	4	5
成果指標 2	有資格指導者数	人	408	398	386	440

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,705	1,449	1,713	1,378
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	2,467	2,212	2,482	2,152

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	江別市体育協会に対し補助金を支出。	補助金	1,713千円

<b>事業開始背景</b>
社会教育関係団体である江別市体育協会について、市内スポーツ及び社会教育の振興・育成を目的として、同協会が実施する事業に対し、その費用の一部を補助する。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="width: 20%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">少年団や各種スポーツ分野において一定の登録指導者がおり、各競技種目において全道・全国大会に予選を突破して出場することが多く、競技スポーツのレベルが維持されている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	少年団や各種スポーツ分野において一定の登録指導者がおり、各競技種目において全道・全国大会に予選を突破して出場することが多く、競技スポーツのレベルが維持されている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	少年団や各種スポーツ分野において一定の登録指導者がおり、各競技種目において全道・全国大会に予選を突破して出場することが多く、競技スポーツのレベルが維持されている。				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="width: 20%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">競技別の指導者養成に力を入れ、けん引役としての指導者を増やすことで、スポーツ人口の増加が期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	競技別の指導者養成に力を入れ、けん引役としての指導者を増やすことで、スポーツ人口の増加が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	競技別の指導者養成に力を入れ、けん引役としての指導者を増やすことで、スポーツ人口の増加が期待できる。				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="width: 20%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;">競技スポーツ振興、青少年のスポーツ技術向上の観点からコスト削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	競技スポーツ振興、青少年のスポーツ技術向上の観点からコスト削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	競技スポーツ振興、青少年のスポーツ技術向上の観点からコスト削減は難しい。				
なし						

事業名：全国大会等開催補助事業

【事業番号 508】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	行事イベント補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市で開催される全国大会の運営経費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	全国大会件数	件	0	2	1	0
活動指標 2	補助金額	千円	0	250	150	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市民が全国レベルの高度なプレーに触れることができる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加者数	人	0	360	486	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	0	250	150	0
正職員人件費 (B)		千円	0	763	384	0
総事業費 (A+B)		千円	0	1,013	534	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市内で開催される全日本マスターズハンドボール大会に対し、補助金を支出。	補助金	150千円

事業開始背景
市内で全国規模の大会が開催されることで、青少年を含む市民が高水準の技術に触れることができ、市民のスポーツ技術の向上や活動の活性化という面でスポーツ振興に資するものであるため、該当する大会に対して補助金を交付する。
事業を取り巻く環境変化
特段の環境変化は生じていない。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">市民が全国レベルの競技スポーツに触れる機会となっている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	市民が全国レベルの競技スポーツに触れる機会となっている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				市民が全国レベルの競技スポーツに触れる機会となっている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">大会は随時に開催されるものであるため。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	大会は随時に開催されるものであるため。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				大会は随時に開催されるものであるため。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">大会規模により必要な経費の補助を行っている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	大会規模により必要な経費の補助を行っている。	なし	
ある	理由 根拠	▶				大会規模により必要な経費の補助を行っている。	
なし							

事業名：森林キャンプ場管理運営事業

【事業番号 512】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

森林キャンプ場

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	5,946	7,636	8,120	7,777
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設の維持管理・運営を適切に行い、自然と触れ合う場を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数	人	13,005	12,192	3,945	13,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	5,946	7,636	8,120	7,777
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	6,708	8,399	8,889	8,551

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	施設の管理運営を指定管理者に委託する。	指定管理料	8,120千円

<b>事業開始背景</b>
平成18年度から指定管理者制度を導入した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
平成16年10月から使用料を徴収している。 平成18年度から利用料金制に切替えた。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	近隣施設においてヒグマが出没し、キャンプ場を一時閉鎖（閉鎖期間：6月11日～9月19日）したため、利用者数は大幅に減少したものの、閉鎖前の5月においては、過去5月おける利用者数が最多となるなど、自然と触れ合う機械の提供に一定の成果が上がっている。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	野幌原始林に隣接していることや都市近郊であることを施設の特色として、キャンプ場ガイド等に掲載し、PRをすることによって、利用数の増が期待できる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	平成18年度から指定管理者制度を導入し、必要最小限の予算で施設を管理している。

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象 (誰、何に対して事業を行うのか)**

全道大会規模以上のスポーツ大会に出場する市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 全道大会規模以上のスポーツ大会に出場する市民数	人	426	291	219	397
対象指標 2					

**手段 (事務事業の内容、手法)**

予選を経て、全道規模以上の大会に出場する市民 (個人及び大学生以下の団体) の参加負担の軽減を図るとともに、市のスポーツ支援政策として奨励金を交付する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 補助金額	千円	2,652	2,495	1,458	2,000
活動指標 2					

**意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)**

スポーツ大会に出場する市民の経費負担を軽減し、スポーツの振興を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 全道大会出場者数	人	264	95	116	211
成果指標 2 全国大会出場者数	人	145	180	99	172

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	2,652	2,495	1,458	2,000
正職員人件費 (B)	千円	762	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)	千円	3,414	4,020	2,995	3,548

	事業内容 (主なもの)	費用内訳 (主なもの)
元年度	予選を経て、全道大会以上に出場する市民 (個人及び大学生以下の団体) に奨励金を交付する。 全道大会出場: 小学生・中学生のみ 3,000円/人 全国大会出場: 道外開催 10,000円/人、道内開催 5,000円/人 国際大会出場: 10,000円~30,000円/人 (大会内容、開催地によって変動)	奨励金 1,458千円

<b>事業開始背景</b>
各種スポーツ大会に江別市を代表して出場する市民に対して奨励金を支給することで、スポーツの振興を図る。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>市内からは、青少年から成人までの各階層、さらには、多種多様なスポーツ種目において、多数の全道大会、全国大会出場者を輩出している。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>市内からは、青少年から成人までの各階層、さらには、多種多様なスポーツ種目において、多数の全道大会、全国大会出場者を輩出している。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>市内からは、青少年から成人までの各階層、さらには、多種多様なスポーツ種目において、多数の全道大会、全国大会出場者を輩出している。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>全国・全道大会等に出場する選手に対する経済的支援を継続することにより、競技スポーツの活性化と競技人口の拡大につながるとともに、競技レベルの向上が期待できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>全国・全道大会等に出場する選手に対する経済的支援を継続することにより、競技スポーツの活性化と競技人口の拡大につながるとともに、競技レベルの向上が期待できる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>全国・全道大会等に出場する選手に対する経済的支援を継続することにより、競技スポーツの活性化と競技人口の拡大につながるとともに、競技レベルの向上が期待できる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>要綱に基づき奨励金を支給しており、毎年出場者数が異なるため、コスト削減は難しい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>要綱に基づき奨励金を支給しており、毎年出場者数が異なるため、コスト削減は難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>要綱に基づき奨励金を支給しており、毎年出場者数が異なるため、コスト削減は難しい。</p>				
なし						

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

**事務事業の目的と成果及び指標**

**対象(誰、何に対して事業を行うのか)**

スポーツ競技団体登録児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	スポーツ競技団体登録児童生徒数	人	1,075	984	938	938
対象指標 2						

**手段(事務事業の内容、手法)**

全国大会・全道大会で優秀な成績を収めた児童生徒を表彰する。  
 ・スポーツ賞：全国大会で、優秀な成績記録を収めた者(高校生以下)  
 ・スポーツ奨励賞：全道大会で1位の成績記録を収めた者(高校生以下)  
 ・教育委員会賞：全道大会で2位又は3位の成績記録を収めた者(中学生以下)

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	審査会開催数	回	3	3	3	3
活動指標 2						

**意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)**

各種スポーツ競技において優秀な成績を収めた選手を表彰することによって、競技スポーツの活性化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	受賞者数	人	69	74	83	77
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	1,322	1,845	2,012	1,495
正職員人件費(B)		千円	1,524	1,907	1,922	1,935
総事業費(A+B)		千円	2,846	3,752	3,934	3,430

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	全国大会・全道大会で優秀な成績を収めた児童生徒を表彰する。	表彰楯・記念バッジ	1,836千円

<b>事業開始背景</b>
政策として制度化された。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
<b>成果動向及び原因分析</b> 上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	<b>理由根拠</b> 例年、多くの市民が好成績を収め、スポーツ賞を受賞している。
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
<b>成果向上余地</b> 成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	<b>理由根拠</b> スポーツ競技団体登録児童生徒数が減少傾向にあることから、各種スポーツの競技人口を維持することが難しくなっているが、この表彰を維持・継続し、上を目指すといった向上心の醸成を図ることにより、さらなる向上が期待できる。
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
<b>コスト</b> ある なし	<b>理由根拠</b> 表彰盾などの授与物品等が値上がりしている中で、効率的に当事業を運営しており、削減は難しい。また、文化賞と同時に表彰を行っているため、事業内容を変更する場合には調整を行う必要がある。

事業名：社会人体育団体学校開放事業

【事業番号 621】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

スポーツ・レクリエーション活動を行うスポーツクラブ（学校部活・営利団体を除く）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	クラブ登録数	団体	143	139	132	140
対象指標 2	クラブ登録人数	人	2,688	2,543	2,796	2,800

手段（事務事業の内容、手法）

10名以上で、かつその8割以上が市内に在住又は勤務先を有し、スポーツ・レクリエーション活動を行う団体を対象として、市内25小中学校体育館（通年）とグラウンド（夏季）の開放を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	開放校数	校	25	25	25	25
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市民のスポーツクラブが定期的にスポーツ・レクリエーション活動を行うことが可能な場を提供することによって、競技スポーツの振興と健康・体づくりとしてのスポーツに親しむ機会が増加する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	学校開放利用人数	人	147,860	140,606	133,527	150,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	226	1	87	268
正職員人件費 (B)		千円	2,666	2,669	2,690	2,709
総事業費 (A+B)		千円	2,892	2,670	2,777	2,977

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	10名以上で、かつその8割以上が市内に在住又は勤務先を有し、スポーツ・レクリエーション活動を行う団体を対象として、市内25小中学校体育館（通年）とグラウンド（夏季）の開放を行う。	清掃用具・スポーツ用品等消耗品	87千円

<b>事業開始背景</b>
市民の心身の健全な発達と地域のスポーツ振興を図ることを目的として、市内小中学校の屋内体育館等を、学校教育活動に支障のない範囲で、社会人のスポーツ団体及びスポーツ少年団等に活動の場として提供する。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
学校の設置されている地域や施設設備にもよるが利用要望は増加しており、活動場所と日時の希望を満たすことが難しくなっている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p style="text-align: right;">▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、年度末の学校開放が中止になったことで全体の利用者数は減少したが、登録団体数、登録人数、利用人数は一定の数値を維持しており、地域におけるスポーツ活動が活性化している。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p style="text-align: right;">▶ 同じ開放校を利用する団体同士の連携が密となり、各学校の特性と利用団体の利用実態に合わせて効率的に開放することができれば、更に利用者数が増加することが期待できる。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
<p style="text-align: right;">▶ 暖房費の実費負担により、コスト削減を図っている。</p>		

事業名：地域スポーツ活動活性化促進事業

【事業番号 628】

スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

学校、自治会等

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 学校、自治会等の数	団体	187	187	188	190
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

地域や学校、団体などにメニューを提示し、選ばれた軽スポーツメニューの指導要求に応じ、スポーツ推進委員が指導に出かける。活動場所の確保は依頼団体が行う。メニューは子どもから高齢者まで楽しめるものを多数用意している。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 スポーツ推進委員数	人	29	29	25	30
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

軽スポーツ、レクリエーションに親しむ人を増やす。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 出前指導派遣者数	人	15	9	23	24
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	187	149	299	269
正職員人件費 (B)	千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)	千円	568	530	683	656

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 地域や学校、団体からの申込に応じ、スポーツ推進委員を派遣して、軽スポーツを指導・普及する。	スポーツ推進委員報酬 157千円

<b>事業開始背景</b>
いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめる軽スポーツの普及を通じて、家庭・学校・地域におけるスポーツに親しむ機会の創出に寄与する。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>学校レクリエーションや自治会のイベントで普及のための指導を行うことが多く、開催回数は流動的であるが、一定の利用実績があり、軽スポーツの普及に寄与している。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>学校レクリエーションや自治会のイベントで普及のための指導を行うことが多く、開催回数は流動的であるが、一定の利用実績があり、軽スポーツの普及に寄与している。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>学校レクリエーションや自治会のイベントで普及のための指導を行うことが多く、開催回数は流動的であるが、一定の利用実績があり、軽スポーツの普及に寄与している。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>当事業以外でも、スポーツ振興財団では軽スポーツの用具貸出を行っており、スポーツ推進委員の指導でルール等を普及し、市民が自主的に活動できるようになれば、軽スポーツ等に親しむ人が増えることにつながる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>当事業以外でも、スポーツ振興財団では軽スポーツの用具貸出を行っており、スポーツ推進委員の指導でルール等を普及し、市民が自主的に活動できるようになれば、軽スポーツ等に親しむ人が増えることにつながる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>当事業以外でも、スポーツ振興財団では軽スポーツの用具貸出を行っており、スポーツ推進委員の指導でルール等を普及し、市民が自主的に活動できるようになれば、軽スポーツ等に親しむ人が増えることにつながる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>事業の効率的な運営に努め、スリム化を図っており、削減は難しい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>事業の効率的な運営に努め、スリム化を図っており、削減は難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>事業の効率的な運営に努め、スリム化を図っており、削減は難しい。</p>				
なし						

事業名： 3市交流スポーツ大会開催事業

【事業番号 1019】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	平成24年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

江別市、札幌市厚別区、北広島市の市民を対象に実施する交流事業の一つで、スポーツ部門ではパークゴルフ大会を3市持ち回りで開催する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	大会数	大会	1	1	1	1
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

近隣市の地域住民がスポーツ大会を通じて交流し、親睦を深めるとともに、参加者の健康増進と技術の向上を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	市民の参加者数	人	84	78	54	70
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	101	0	0	80
正職員人件費 (B)		千円	762	0	0	387
総事業費 (A+B)		千円	863	0	0	467

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
元年度	パークゴルフ大会を3市持ち回りで開催している。平成31年度は江別市での開催は無し（札幌市厚別区開催）。	なし

<b>事業開始背景</b>
江別市、札幌市厚別区、北広島市の市民を対象にパークゴルフ大会と家庭婦人スポーツ大会（バドミントン、卓球、バレーボール）を3市持ち回りで開催し、近隣市の地域住民がスポーツ大会を通じて交流し、親睦を深めるとともに、参加者の健康増進と技術の向上を図る。交流事業は、平成6年より開始されており、これまでは厚別区が主体となり運営や経費負担を行っていたが、平成24年度からはこれを3市の持ち回り負担とした。参加者や運営者の高齢化により、平成28年度を最後に家庭婦人スポーツ交流大会は中止となった。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

事業名：スポーツ大会等振興補助事業

【事業番号 5240】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策							
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

一般財団法人江別市スポーツ振興財団

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	対象団体数	団体	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

・江別市スポーツ振興財団が行う原始林クロスカントリー大会などのスポーツ大会、健康体づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業に対して補助を行う。  
・「江別市スポーツ振興財団運営費等補助金交付要領」に基づき、一般財団法人江別市スポーツ振興財団に対し定額を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	44,783	44,236	43,348	43,532
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

健康づくりに興味・関心を持ち、大会参加を視野に入れたスポーツ活動を日常的に継続できる習慣を身につけ、生涯スポーツの基盤を構築する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加者数	人	7,509	7,906	7,847	8,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	44,783	44,236	43,348	43,532
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	45,545	44,999	44,117	44,306

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	一般財団法人江別市スポーツ振興財団に対し補助金を支出。	補助金	43,348千円

<b>事業開始背景</b>
一般財団法人江別市スポーツ振興財団は、平成4年の設立以来、市民各層にわたるスポーツの普及・振興を図り、市民の健康・体力づくり活動を助長するとともに、市全体のスポーツ活動の活性化を目指している。同財団の目的に適合するスポーツ大会等のスポーツ振興事業が円滑に進められ、より一層の市民に対するスポーツ振興が図られるよう、補助金を交付する。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

事業名：屋内体育施設管理運営事業

【事業番号 6157】  
スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	平成26年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民体育館、大麻体育館、青年センター、東野幌体育館

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	4	4	4	4
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	176,996	182,219	187,608	190,175
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設の維持管理・運営を適切に行い、スポーツに親しむ場を提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	利用者数（4館合計）	人	503,541	487,594	452,777	500,000
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	176,996	182,219	187,608	190,175
正職員人件費 (B)		千円	3,047	3,051	3,075	3,096
総事業費 (A+B)		千円	180,043	185,270	190,683	193,271

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	施設の管理運営を指定管理者へ委託する。	指定管理料	187,608千円

<b>事業開始背景</b>
平成18年度から指定管理者制度を導入した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>	
<b>(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？</b>	
成果動向及び原因分析	上がっている
	<b>どちらかといえば上がっている</b>
	上がっていない
理由根拠	<p>市民体育館のアリーナ床及び照明改修工事に伴う臨時休館や新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う全館臨時休館により、利用者数は減少しているものの、左記関係月以外の利用者数は高い水準を維持しており、スポーツ活動の場と教室などの機会の提供に一定の成果が上がっている。</p>
<b>(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？</b>	
成果向上余地	成果向上余地 大
	<b>成果向上余地 中</b>
	成果向上余地 小
理由根拠	<p>教室事業や健康相談事業を通じて、市民がスポーツに親しむことを習慣化できれば、スポーツに親しむ市民の増加が期待できる。</p>
<b>(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？</b>	
コスト	ある
	<b>なし</b>
理由根拠	<p>平成18年度から指定管理者制度を導入している。</p>

事業名：スポーツ合宿誘致推進事業

【事業番号 6185】

スポーツ課参事(合宿誘致・スポーツ交流事業担当)

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策	
開始年度	平成27年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標2					

手段(事務事業の内容、手法)

広くスポーツ団体等に江別市の魅力をPRするとともに、合宿時の送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園等の施設使用料の補助、江別特産品の提供など、道外からの合宿利用団体への支援により合宿誘致を推進する。  
「江別市スポーツ合宿誘致推進事業実施要綱」に基づき、合宿団体に対し、合宿の内容、実績に応じて補助等の支援をする。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 協議会開催数	回	0	0	1	1
活動指標2 道外へのPR活動回数	回	0	0	0	1

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

スポーツ合宿の誘致、支援活動を通じ、市民の健康づくり、スポーツへの関心度を高めるとともに、トップアスリートなどとの交流により、ハイレベルなスポーツ技術の向上と市民スポーツ活動の活性化を図る。また、江別市のイメージアップによる誘客と人的交流を促進するなど、シティプロモートに資する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 合宿を行った団体数(道外)	団体	14	10	14	12
成果指標2 市民との交流事業数	回	14	10	14	12

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	3,311	2,710	1,929	2,829
正職員人件費(B)	千円	6,094	9,152	6,150	6,193
総事業費(A+B)	千円	9,405	11,862	8,079	9,022

事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度 各種スポーツ団体への江別市のPRを行い合宿誘致を進め、道外からの合宿団体に対する送迎サービス、道立野幌総合運動公園等の施設使用料の補助などの支援を行う。また、合宿団体との調整により市民との交流事業を実施する。	送迎バス借上料 1,124千円 道立野幌総合運動公園等施設使用料補助 474千円 特産品提供経費 331千円

**事業開始背景**

東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機にシティプロモートの一環としてスポーツ合宿誘致を進め、合宿を通じて江別市のスポーツ推進を図る。

**事業を取り巻く環境変化**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、道外からのスポーツ合宿は激減している。また、来年度は東京オリンピックにおけるマラソン・競歩の会場が札幌市となったことから、関連した合宿の受入が想定される。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	道内外の競技団体へのPR活動を通じて、実施検討を含めた問い合わせが多数寄せられるようになった。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	令和元年度の実績と引き続き行った誘致PRの効果は高く、今後も合宿団体の増加に繋がっていくものと考えている。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	補助対象項目の見直しや補助上限額の見直しを行っており、現状ではこれ以上の削減は難しい。
	なし			

事業名：総合型地域スポーツクラブ支援事業 スポーツ課 スポーツ係

政策	07 生涯学習・文化	戦略						
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策						
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

総合型地域スポーツクラブのPRを支援し、市民に情報提供を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	PR支援回数	回	3	3	3	3
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

総合型地域スポーツクラブの活動が活性化することにより、市民のスポーツの機会が充実する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	クラブ数	団体	3	3	3	3
成果指標 2	クラブ会員数	人	709	703	651	650

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	381	381	384	387

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市内の総合型地域スポーツクラブを広報等で紹介し、市民に情報提供を行う。	人件費事業のため予算措置なし	

<b>事業開始背景</b>
市内で活動する他のスポーツクラブを支援することを目的として、事業を開始した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
特段の環境変化は生じていない。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>現在市内で活動している総合型地域スポーツクラブは、自主財源により運営しており、一定の会員数を確保している。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>現在市内で活動している総合型地域スポーツクラブは、自主財源により運営しており、一定の会員数を確保している。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>現在市内で活動している総合型地域スポーツクラブは、自主財源により運営しており、一定の会員数を確保している。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>地域住民によって自主的に運営される総合型地域スポーツクラブの創設、また既存の総合型地域スポーツクラブの活動拡充などにより、市民のスポーツ機会の充実につながる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>地域住民によって自主的に運営される総合型地域スポーツクラブの創設、また既存の総合型地域スポーツクラブの活動拡充などにより、市民のスポーツ機会の充実につながる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>地域住民によって自主的に運営される総合型地域スポーツクラブの創設、また既存の総合型地域スポーツクラブの活動拡充などにより、市民のスポーツ機会の充実につながる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>人件費事業であるため。</p> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>人件費事業であるため。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>人件費事業であるため。</p>				
なし						

政策	07 生涯学習・文化	戦略							
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策							
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・市民がパラリンピック競技や障がい者スポーツを実体験できるイベントである「パラ・スポ体験会」の支援を行う。
- ・江別市教育振興補助金交付規則に基づき、実行委員会に対し、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	イベント参加者数	人	200	0	200	0
活動指標 2	補助金額	千円	150	123	150	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会開催を契機として、市民のパラリンピック競技や障がい者スポーツへの理解を深め、すべての人がスポーツに親しみ、楽しむための意識醸成を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	体育館の障がい者利用者数	人	160	143	110	0
成果指標 2	体育館の障がい者利用延べ回数	回	5,530	5,363	4,619	0

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	150	123	150	0
正職員人件費 (B)		千円	1,524	1,525	1,537	0
総事業費 (A+B)		千円	1,674	1,648	1,687	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	イベント実行委員会へ補助金を交付する。	補助金	150千円

<b>事業開始背景</b>
パラリンピック競技などの障がい者スポーツを広く市民に紹介し、実際に体験する機会を提供し、障がい者（児）への理解を深めることを目的に事業を開始した。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
2020年東京オリンピック・パラリンピック大会開催を契機として、パラリンピック競技は注目度が高くなっており、各地でパラリンピック競技、障がい者スポーツの普及を目的としたイベントが開催されている。

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果 動向 及び 原因 分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
一定数の参加者があり、障がい者スポーツが体験できる機会を創出している。		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果 向 上 余 地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
事業完了に伴い、成果指標の向上する余地は無い。		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コ ス ト	ある	理由 根拠
	なし	
事業完了に伴い、新たに発生するコストは無い。		

事業名：ラグビーワールドカップ公認チームキャンプ地受入事業 スポーツ課参事(合宿誘致・スポーツ交流事業担当)

政策	07 生涯学習・文化	戦略	
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実	具体的施策	
開始年度	令和元年度	終了年度	—
	区分1	新規	区分2
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

・ラグビーオーストラリア代表チーム  
・市民

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1 対象団体数	団体	0	0	1	0
対象指標2					

手段(事務事業の内容、手法)

オーストラリア代表の公認チームキャンプ地受入れに伴う対応として、キャンプ地の仮設設備等の設置、地域交流イベントの実施、各種機会におけるPR活動等を行う。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1 市民との交流事業数	回	0	0	15	0
活動指標2					

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

海外からの合宿利用団体への支援実績を契機に合宿地としてのイメージアップと誘致促進にはずみをつけ、トップアスリートなどとの交流により、市民スポーツ活動の活性化を図る。また、江別市の魅力のPRとイメージアップによる誘客、人的交流を促進するなど、シティプロモートに資する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1 参加者数	人	0	0	1,067	0
成果指標2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	0	0	8,896	0
正職員人件費(B)	千円	0	0	13,837	0
総事業費(A+B)	千円	0	0	22,733	0

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	ラグビーワールドカップオーストラリア代表の公認チームキャンプ地受入れに伴う対応 ・キャンプチーム受入れに要する仮設設備等の設置 ・チーム歓迎イベントの実施 ・地域交流イベントの実施	・仮設設備関係経費 6,281千円 ・チーム歓迎イベント経費 739千円 ・地域交流イベント経費 710千円 ・啓発・PR関連経費 869千円

**事業開始背景**

ラグビーワールドカップ2019の公認チームキャンプ地募集に対し、江別市と北海道が共同申請を行い、平成30年4月に大会組織委員会からオーストラリア代表の公認キャンプ地として内定され、同年12月に正式決定となった。これにより、令和元年9月にラグビーオーストラリア代表が、試合に向けた直前キャンプを江別市で行うこととなった。

**事業を取り巻く環境変化**

ラグビーワールドカップは令和元年度（2019年度）で終了したが、ラグビーに対する市民の関心は、ワールドカップ開催前よりも高まった。

**令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）**

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	当初予定していた以上に関連イベントを開催することができ、イベント参加者数も当初の予定を上回った。 また、令和2年度には、ラグビーワールドカップを契機に江別市内にラグビー協会やタグラグビー少年団が新設されるなど、市民スポーツ活動の活性化につながっている。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	事業完了に伴い、成果指標の向上する余地は無い。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	事業完了に伴い、新たに発生するコストは無い。
	なし		

事業名 : スペシャルオリンピックス冬季ナショナルゲーム開催補助金 スポーツ課参事 (合宿誘致・スポーツ交流事業)

政策	07 生涯学習・文化			戦略					
取組の基本方針	03 市民スポーツ活動の充実			具体的施策					
開始年度	令和元年度	終了年度	令和元年度	区分1	新規	区分2	補助	補助金	行事イベント補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

・公益財団法人スペシャルオリンピックス日本  
・市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	対象団体数	団体	0	0	1	0
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

ふるさと納税を活用した寄付を原資として、スペシャルオリンピックス冬季ナショナルゲームの運営経費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	0	0	2,309	0
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

知的障がいのあるアスリートの成果発表の場である競技会の開催を支援することにより、知的障がいのある人の社会参加を応援するとともに、市民との相互理解、相互交流を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加者数	人	0	0	0	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	0	0	2,309	0
正職員人件費(B)		千円	0	0	1,537	0
総事業費(A+B)		千円	0	0	3,846	0

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	・補助金の交付	・補助金	2,309千円

事業開始背景
<p>スペシャルオリンピックス日本から、知的障がい者の冬のスポーツの全国大会開催に当たり、江別市に協力要請があり、それを受けて資金面や大会運営面で協力することとなった。 江別市ではクロスカントリースキーとスノーシューイングの2種目を実施予定であり、2019年2月のプレ大会（北海道・東北ブロック大会）を経て、2020年2月に全国大会開催となる。</p>
事業を取り巻く環境変化
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国大会は中止。 その後も感染拡大が収束せず、スペシャルオリンピックス以外の各種障がい者スポーツの大会も多数中止となっている状況にある。</p>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">大会が中止となり、選手・関係者等が来江できなかったため。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	大会が中止となり、選手・関係者等が来江できなかったため。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				大会が中止となり、選手・関係者等が来江できなかったため。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">事業完了に伴い、成果指標が向上する余地は無い。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	事業完了に伴い、成果指標が向上する余地は無い。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				事業完了に伴い、成果指標が向上する余地は無い。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">事業終了に伴い、新たに発生するコストは無い。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	事業終了に伴い、新たに発生するコストは無い。	なし	
ある	理由 根拠	▶				事業終了に伴い、新たに発生するコストは無い。	
なし							

事業名：小中学生国内交流研修事業

生涯学習課 青少年係

政策	08 協働	戦略	
取組の基本方針	01 協働のまちづくりの推進	具体的施策	
開始年度	平成 5年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

国内交流研修訪問団

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 研修訪問団構成員数	人	16	16	16	16
対象指標 2 土佐市からの研修訪問数	人	16	16	15	16

手段（事務事業の内容、手法）

- ・友好都市土佐市との相互交流  
訪問：＜事前研修＞8月下旬～10月上旬／土佐市・江別市の概要学習、交流会プログラム企画等  
＜実地交流研修＞10月中旬／ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学  
受入：＜土佐市訪問団受入＞1月中旬／ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学
- ・事業集録の作成
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、交流研修訪問団に対し、補助金を交付する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 補助金額	千円	1,232	1,232	1,153	1,115
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

土佐市との教育交流の中から児童生徒の友好都市への認識を深めるとともに、様々な生活文化や風土にふれ、豊かな感性が養われるようになる。また、異なる文化等に触れることで、自分の住む地域を見つめ直し、江別市への理解を深めて郷土愛を育む。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 交流イベント参加者数	人	4,482	3,535	3,693	3,404
成果指標 2 訪問した学校の生徒数	人	1,027	787	713	1,065

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	1,566	1,563	1,530	1,535
正職員人件費 (B)	千円	3,809	3,432	3,459	3,483
総事業費 (A+B)	千円	5,375	4,995	4,989	5,018

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 ・訪問 ＜事前研修＞8月下旬～10月上旬／土佐市・江別市について学習、交流会プログラム企画等 ＜実地交流研修＞10月中旬／ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学 ・受入 ＜土佐市訪問団受入＞1月中旬／ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学 ・事業集録の作成 ・交流研修訪問団の事業に対し補助金を交付	・引率教諭・同行職員旅費 377千円 ・交流研修訪問団への補助金 1,153千円

事業開始背景
<p>・昭和53年に市制20周年を迎えた土佐市から、南国の土佐市と異なる北国の市であり、市制施行時の人口がほぼ同じで発展の過程を参考にしたい等の理由から、江別市・土佐市間での友好都市提携の働きかけがあったため、同年友好都市提携を交わした。その後、平成5年度から、子ども達が他市における歴史・文化・産業等を学ぶとともに、自分の住むまちを見つめ直すことで、郷土を愛する心を育むことを目的として、土佐市との交流事業を開始した。</p>
事業を取り巻く環境変化
<p>・令和元年度が第27回目の実施となり、これまでに464名が土佐市を訪問し、527名の受入を行っている。平成29年度からは、さらなる交流促進のため、派遣する小学生を2名、引率教諭を1名増員し、土佐市訪問団の人数と同数とした。</p>

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p>・交流イベント参加者、訪問校生徒数は、年度により受入校・訪問校が異なるため数値に変動が生じるが、交流した児童生徒の満足度は、事後に作成される事業集録に寄せられる感想から高いことが分かり、友好都市との交流推進の成果は上がっている。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p>・交流研修の内容を見直し、体験プログラムを充実させることにより、成果が向上する余地はある。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
<p>滞在中の安全確保と生活指導面を考慮すると、これ以上の体制見直しは困難である。また、航空運賃等は年度により変動が生じるので、実勢価格による補助金交付が望ましい。</p>		

事業名：中学生国際交流事業

【事業番号 537】

生涯学習課 青少年係

政策	08 協働	戦略	
取組の基本方針	02 国際交流の推進	具体的施策	
開始年度	平成 7年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2
	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・海外研修交流訪問団

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 研修訪問団構成員数	人	9	8	8	8
対象指標 2 グレシャムからの訪問数	人	7	6	7	7

手段（事務事業の内容、手法）

○姉妹都市グレシャム市との相互交流を行う。  
 ・派遣：＜事前研修＞8月下旬～11月下旬／グレシャム市・江別市の概要学習、語学研修、交流会プログラム企画等  
 ＜実地研修＞12月上旬／ホームステイ、体験入学、施設見学、体験学習  
 ・受入：＜グレシャム市訪問団受入＞2月上旬／ホームステイ、体験入学、施設見学、体験学習  
 ・事業報告書作成  
 ○「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、研修訪問団に対し、補助金を交付する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 補助金額	千円	1,448	1,508	1,397	1,249
活動指標 2 アメリカ文化習得のための学習会開催回数	回	9	9	9	9

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・グレシャム市との相互交流を通じ、自国と相手国の文化や歴史に対する理解を深め、国際社会に通用する豊かな国際感覚が養われるようになる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 交流イベント参加者数	人	1,100	1,075	1,222	1,205
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	2,504	2,277	2,204	2,050
正職員人件費 (B)	千円	3,809	3,432	3,459	3,483
総事業費 (A+B)	千円	6,313	5,709	5,663	5,533

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 ・派遣 （事前研修）グレシャム市・江別市の概要学習、語学研修 （実地研修）ホームステイ、体験入学、施設見学、体験学習 ・受入 ホームステイ、体験入学、施設見学、体験学習 ・事業報告書の作成 ・活動団体の事業に対し補助金を交付	引率者旅費 790千円 研修訪問団への補助金 1,397千円

<b>事業開始背景</b>
<p>・札幌市がポートランド市との交流を始めたのをきっかけに、地理的条件が類似するグresham市から江別市へ交流の働きかけがあり、昭和52年に姉妹都市提携。その後、平成7年度から、グresham市の歴史や産業、生活文化等を直接体験することで、中学生の国際理解の促進と国際感覚の醸成を図ることを目的として、グresham市との交流事業を開始した。</p>
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
<p>・令和元年度が25回目の実施となり、これまでに183名がグresham市を訪問し、189名の受入を行っている。</p>

<b>令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）</b>		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	